

福島県内遺跡分布調査報告22

2015年8月

福島県教育委員会

福島県内遺跡分布調査報告22

序 文

福島県教育委員会は、大規模開発等から埋蔵文化財包蔵地を保護するため、開発事業が行われる以前に詳細な分布調査を実施し、関係機関と保存協議を行い、埋蔵文化財の保存に努めています。

平成26年度は、2市2町の区域内で計画された4事業の試掘調査のうち、2事業について公益財団法人福島県文化振興財団に委託して行うとともに、2事業について県教育委員会が実施しました。

浜通り地方では、相馬市において一般国道115号相馬福島道路建設事業に関連した4箇所の試掘調査を実施しました。

中通り地方では、伊達市において一般国道115号相馬福島道路建設事業に関連した11箇所の試掘調査、岩瀬郡鏡石町において一般国道118号バイパス建設事業に関連した1箇所の試掘調査を実施しました。

会津地方では、南会津郡下郷町において会津縦貫南道路建設事業に関連した1箇所の試掘調査及び一般国道289号南倉沢バイパス建設事業に関連した1箇所の試掘調査を実施しました。

試掘調査の結果、存在が知られていた遺跡の範囲や内容が明らかになるとともに、これまで知られていなかった遺跡を発見することもできました。

本報告書は、これらとともに平成26年3月に実施した一般国道118号バイパス建設事業に関連した1箇所の試掘調査の成果もあわせてまとめたものです。この報告書が、埋蔵文化財の保護や地域の歴史を解明するための基礎資料となり、さらには生涯学習の資料として広く県民の皆さんに御活用いただければ幸いです。

最後に、この調査に御協力いただいた当該市町村教育委員会や公益財団法人福島県文化振興財団をはじめ関係機関並びに関係各位に対し深く感謝の意を表します。

平成27年8月

福島県教育委員会

教育長 杉 昭 重

緒 言

1. 本書は、平成26年度に実施した一般国道115号相馬福島道路、地域高規格道路(会津縦貫南道路)、一般国道118号バイパス、一般国道289号南倉沢バイパスの各建設予定地内に所在する遺跡及び遺跡推定地(試掘調査により遺跡の存否を確認する地点)の試掘調査、及び平成26年3月に実施した一般国道118号バイパスの試掘調査の報告書である。
2. この調査は、国庫補助を受け福島県教育委員会が実施した。
3. 福島県教育委員会は、一般国道118号バイパス及び一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地内の試掘調査を除く調査を公益財団法人福島県文化振興財団に委託した。
4. 福島県教育委員会は、下記の職員を配置して調査を実施した。
文化財副主査 関 敦司
5. 公益財団法人福島県文化振興財団は、下記の職員を配置して調査を実施した。
文化財主査 丹治 篤嘉 文化財主事 菅野 美句
嘱 託 松本 茂
6. 本書は、第2章第3節及び第4節を福島県教育庁文化財課関敦司が執筆し、その他は公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部職員が執筆した。
7. 調査にあたっては、地元地権者・地権者会・行政区長をはじめ下記の機関に多くの協力をいただいた。
相馬市教育委員会 伊達市教育委員会 鏡石町教育委員会 下郷町教育委員会
福島県土木部（県中建設事務所・南会津建設事務所）
国土交通省東北地方整備局（福島河川国道事務所・郡山国道事務所・磐城国道事務所）
8. 事業名称が長いものについては、一部省略した表現を用いている。
9. 本書に使用した遺跡の調査記録及び出土資料は、福島県教育委員会が保管している。

用 例

1. 本書における用例は次のとおりである。

- (1) 周知の遺跡及び遺跡推定地の位置図は、国土交通省国土地理院発行縮尺1/25,000の地形図(相馬中村・青葉・靈山・萩平・保原・須賀川西部・湯野上・甲子山)を、一般国道115号相馬福島道路位置図は、同じく縮尺1/200,000の地形図(福島)を複製したものを使用している。
- (2) レンチ配置図は、各事業主体作製の縮尺1/1,000・1/2,000・1/2,500地形図を基とした。

2. 本書第2章における遺跡・遺跡推定地及びレンチ配置図の用例は次のとおりである。

- (1)  : 現状保存範囲
- (2)  : 未試掘範囲
- (3)  : 工事などの実施にあたっては慎重工事の措置をとる必要がある範囲
- (4)  : 遺跡推定地で遺構・遺物が確認されず、遺跡として取り扱わないと判断された範囲
- (5)  : 遺構・遺物が確認できたレンチ
- (6)  : 遺構・遺物が確認できなかったレンチ
- (7)  : 工事予定範囲
- (8)  : 周知の遺跡及び表面調査による遺跡推定地範囲

3. 遺跡推定地の名称は便宜上アルファベットの「B」と算用数字を組合せて表記するが、試掘調査によって遺跡であることが確定すれば所在地の字名や地名をとり、新たに遺跡名称を付している。

4. 各遺跡の呼び方は、『日本地名大辞典7福島県』(角川書店)収録の「小字一覧」にならったが、通称が定着しているときは、それに従った。

5. 遺構図の用例は次のとおりである。

- (1) 平面図の縮尺は、基本的に各挿図版の右下(スケール右側)に記した。
- (2) 検出した遺構は、網点で表示した。
- (3) 土色の判定に際しては、『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社)を用いた。

6. 本書で使用した略号は、次のとおりである。

T : レンチ	L : 遺構外堆積土	ℓ : 遺構内堆積土	S I : 縦穴住居跡
S K : 土 坑	S D : 溝 跡	SW : 製鉄炉跡	S C : 木炭窯跡
P : 小 穴	S X : 縦穴状遺構・性格不明遺構		
S M : 相 馬 市	D T : 伊 達 市	Q R : 桑 折 町	K I : 鏡 石 町
C G : 下 郷 町			

目 次

第1章 遺跡分布調査の概要	1	
第2章 試 堀 調 査	3	
第1節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地	3	
(1) 相馬市の遺跡		
SM-B①(7)	SM-B⑨【横川B遺跡】(8)	SM-B⑩(9)
SM-B⑯【向山遺跡】(10)		
(2) 伊達市の遺跡		
DT-B 18【庚申向A遺跡】(11)	DT-B 17【庚申向B遺跡】(13)	DT-B 16 (13)
前柳館跡(14)	DT-B 19 (15)	DT-B 20 (16)
DT-B 21【沼ヶ入遺跡】(16)	DT-B 3【福田遺跡】(18)	DT-B 22 (19)
山岸遺跡(20)	DT-B 28 (21)	
第2節 地域高規格道路（会津綾貫南道路）建設予定地	23	
CG-B 13 (23)		
第3節 一般国道118号バイパス建設予定地	25	
江泉館跡(25)	KI-B 1 (26)	
第4節 一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地	27	
CG-B 7【猪番場平遺跡】(27)		
第3章 総 括	29	

挿図・表・写真目次

【挿 図】

第1章

図 1	路内道路分布調査位置図	1
第2章		
図 2	一般国道115号相馬福島道路位置図	3
図 3	相馬市の道路(1)	4
図 4	相馬市の道路(2)	5
図 5	伊達市の道路(1)	6
図 6	伊達市の道路(2)	7
図 7	SM-B①トレンチ配置図	7
図 8	SM-B②トレンチ配置図	8
図 9	SM-B③検出道構・土層柱状図	9
図10	SM-B④トレンチ配置図	9
図11	SM-B⑤(向山道路)トレンチ配置図・土層柱状図	10
図12	DT-B 18 トレンチ配置図・検出道構・土層柱状図	14
	DT-B 17 トレンチ配置図	12
図13	DT-B 17 検出道構・土層柱状図	13
図14	DT-B 16 トレンチ配置図	14
図15	前柳船跡トレンチ配置図	14

図16	DT-B 19・B 20 トレンチ配置図	15
図17	DT-B 3・B 21 トレンチ配置図	17
図18	DT-B 21 検出道構・土層柱状図	18
図19	DT-B 3 検出道構・土層柱状図	19
図20	DT-B 22 トレンチ配置図	20
図21	山岸道路トレンチ配置図	21
図22	DT-B 28 トレンチ配置図	22
図23	下郷町の道路	23
図24	C G-B 13 トレンチ配置図	24
図25	鏡石町・須賀川市の道路	25
図26	江原船跡トレンチ配置図	26
図27	K I-B 1 トレンチ配置図	26
図28	下郷町の道路	27
図29	C G-B 7 (猪俣場平道路) トレンチ配置図	28

検出道構・土層柱状図

【表】

第1章

表 1	相馬福島道路試掘調査道路一覧	2
表 2	地域高規格道路(会津坂東南道路)試掘調査道路一覧	2
表 3	一般国道118号バイパス試掘調査道路一覧	2
表 4	一般国道289号南倉沢バイパス試掘調査道路一覧	2

第2章

表 5	相馬市所在道路試掘調査結果一覧	4
表 6	伊達市所在道路試掘調査結果一覧	5
表 7	SM-B①トレンチ一覧	8
表 8	SM-B②(向山道路)トレンチ一覧	10
表 9	DT-B 18 トレンチ一覧	11
表10	DT-B 17 トレンチ一覧	13
表11	DT-B 21 トレンチ一覧	16
表12	DT-B 3 トレンチ一覧	18
表13	下郷町所在道路試掘調査結果一覧	23
表14	鏡石町所在道路試掘調査結果一覧	25
表15	下郷町所在道路試掘調査結果一覧	27

第3章

表16	相馬福島道路(相馬西道路) 開通	
	試掘調査対象道路成果一覧(相馬市)	29
表17	相馬福島道路(阿武隈東~阿武隈) 開通	
	試掘調査対象道路成果一覧(相馬市・伊達市)	30
表18	相馬福島道路(笠山道路) 開通	
	試掘調査対象道路成果一覧(伊達市)	30
表19	相馬福島道路(笠山~福島) 開通	
	試掘調査対象道路成果一覧(伊達市・桑折町)	31
表20	地域高規格道路(会津坂東南道路) 開通	
	試掘調査対象道路成果一覧(下郷町)	32
表21	一般国道118号バイパス開通	
	試掘調査対象道路成果一覧(鏡石町)	32
表22	一般国道289号南倉沢バイパス開通	
	試掘調査対象道路成果一覧(下郷町)	32

【写 真】

第2章

1	5号トレンチ土丸断面(北東から)	8
2	51号トレンチ堅鉄炉跡検出状況(東から)	10
3	調査区全景(東から)	11
4	7号トレンチ堅穴住居跡検出状況(街から)	13

5	調査区南部全景(南東から)	16
6	調査区全景(南東から)	18
7	10号トレンチ堅穴状道構検出状況(東から)	19

第1章 遺跡分布調査の概要

平成26年度は、一般国道115号相馬福島道路及び会津綾貫南道路の2事業(2市1町)についての試掘調査を公益財團法人福島県文化振興財團に委託して実施した。また、一般国道118号バイパス及び一般国道289号南倉沢バイパスの2事業(2町)についての試掘調査を福島県教育委員会が実施した。

【一般国道115号相馬福島道路】

相馬市・伊達市における計画路線内の15箇所計66,750m²の遺跡及び遺跡推定地を対象に試掘調査を実施した。一般国道115号相馬福島道路は、相馬西道路、阿武隈東道路、阿武隈東～阿武隈、靈山道路、靈山～福島の5区間に分かれ、このうち、阿武隈東道路は平成21年度までに試掘調査・本発掘調査が終了している。

相馬市地内の相馬西道路の区間では、SM-B①・SM-B⑨の2箇所計6,250m²の試掘調査を実施した。その結果、遺構を確認したSM-B⑨の1,600m²を保存範囲とした。

相馬市地内の阿武隈東～阿武隈の区間では、SM-B⑧・SM-B⑯(向山遺跡)の2箇所計12,900m²の試掘調査を実施した。その結果、遺構・遺物を確認したSM-B⑯(向山遺跡)の1,700m²を保存範囲とした。

伊達市地内の阿武隈東～阿武隈の区間では、DT-B16・DT-B17・DT-B18の3箇所計12,500m²の試掘調査を実施した。その結果、遺構・遺物を確認したDT-B17(500m²)・DT-B18(4,300m²)の2箇所計4,800m²を保存範囲とした。

伊達市地内の靈山道路の区間では、前柳館跡・山岸遺跡・DT-B3・DT-B19・DT-B20・DT-B21・DT-B22の7箇所計29,100m²の試掘調査を実施した。その結果、遺構・遺物を確認したDT-B3(1,100m²)・DT-B21(4,400m²)の2箇所計5,500m²を保存範囲とした。

伊達市地内の靈山～福島の区間では、DT-B28の6,000m²を対象に試掘調査を実施した。その結果、遺構・遺物は確認されず、保存対象外とした。

なお、阿武隈東～阿武隈の区間は、相馬市地内・伊達市地内とも平成26年度で試掘調査が終了した。また、相馬市地内のSM-B⑯(向山遺跡)・伊達市地内のDT-B18の2箇所については、試掘調査終了後に本発掘調査を行っている。

【地域高規格道路(会津綾貫南道路)】

南会津郡下郷町における計画路線内の遺跡推定地であるCG-B13の600m²を対象に試掘調査を実施した。その結果、保存対象外とした。

【一般国道118号バイパス】

岩瀬郡鏡石町における計画路線内の遺跡推定地であるKI-B1の150m²を対象に試掘調査を実施した。また、平成26年3月には計画路線内の江泉館跡700m²を対象に試掘調査を実施した。その結果

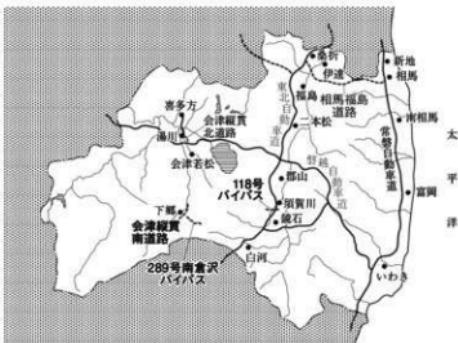


図1 県内遺跡分布調査位置図

第1章 遺跡分布調査の概要

果、いずれも保存対象外とした。鏡石町における当事業の試掘調査は、平成26年度すべて終了した。

[一般国道289号南倉沢バイパス]

南会津郡下郷町における計画路線内のC G - B 7（猪巣場平遺跡）の700mを対象に再試掘調査を実施した。その結果、新たな遺構・遺物は確認されず、過年度に検出した土坑の記録作成を行い、調査を終了した。

表1 相馬福島道路試掘調査遺跡一覧

名 称	所 在 地	立 地	調 査 期 間	トレンチ	備 考
S M - B ①	相馬市山上字荒屋舎	氾濫原～沖積地	10/6～10/7, 12/8～12/9	8本 4.5%	
S M - B ⑨	山上字横川	丘陵西向き斜面	12/10～12/12	8本 4.4%	「横川B道路」に名称変更
S M - B ⑩	東玉野字矢立沢	丘陵～丘陵裾部	7/28～8/7, 12/16～12/22	25本 4.7%	
S M - B ⑪ (向山道路)	東玉野字向山・町裏	丘陵～丘陵裾部	4/24～4/25, 6/17～6/20	7本 14.4%	
D T - B 18	伊達市靈山町石田字庚申向	丘陵裾部	8/19～9/10	16本 4.8%	「庚申向A道路」に名称変更
D T - B 17	靈山町石田字庚申向	丘陵裾部	8/28～9/10	9本 9.4%	「庚申向B道路」に名称変更
D T - B 16	靈山町石田字庚申向	丘陵裾部	9/11～9/19	6本 5.5%	
前 柳 鮎 路	月詠町御代田字猪作	丘陵	5/20	2本 2.7%	
D T - B 19	靈山町下小国字山田入	丘陵裾部	6/3～6/5	11本 6.2%	
D T - B 20	靈山町下小国字山田入・ 前山	丘陵北向き緩斜面	5/26～6/3	19本 4.9%	
D T - B 21	靈山町下小国字沼ヶ入・ 御渡	段丘面	6/20～7/1, 7/22, 12/1～12/4	30本 5.2%	「沼ヶ入道路」に名称変更
D T - B 3	靈山町下小国字福田・桜町	段丘面	5/1～5/25, 6/17～6/20	11本 4.9%	「福田道路」に名称変更
D T - B 22	靈山町下小国字荒屋敷・ 桜町・沖	段丘面	7/2～7/25	16本 5.5%	
山 岸 道 路	靈山町下小国字山岸・清水	段丘面	6/10～6/16	2本 8.0%	
D T - B 28	保原町上保原字持坂	丘陵	10/20～10/31	23本 7.5%	

表2 地域高規格道路（会津経貫南道路）試掘調査遺跡一覧

名 称	所 在 地	立 地	調 査 期 間	トレンチ	備 考
C G - B 13	下郷町高賀字下居平乙	段丘面	11/4～11/12	3本 7.8%	

表3 一般国道118号バイパス試掘調査遺跡一覧

名 称	所 在 地	立 地	調 査 期 間	トレンチ	備 考
江 泉 鮎 路	鏡石町深内町	丘陵～沖積地	3/4	2本 8.6%	
K I - B 1	蒲之沢町	段丘面	6/16	1本 7.3%	

表4 一般国道289号南倉沢バイパス試掘調査遺跡一覧

名 称	所 在 地	立 地	調 査 期 間	トレンチ	備 考
C G - B 7 (猪巣場平遺跡)	下郷町南倉沢字猪巣場平	段丘面	5/16	3本 12.6%	

[註] 表中のトレンチ内の%は、今年度の試掘調査対象面積に対するトレンチ面積の割合を示す。

第2章 試掘調査

第1節 一般国道115号相馬福島道路建設予定地

一般国道115号相馬福島道路は、常磐自動車道と東北自動車道を結ぶ約45kmの高規格幹線道路（自動車専用道路）として計画され、東日本大震災からの早期復興を図る復興支援道路として緊急に整備されることとなった。全5区間のうち、相馬西道路及び阿武隈東道路の2区間を国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所が、阿武隈東～阿武隈、靈山道路、靈山～福島の3区間を国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所が事業を進めている。

阿武隈東道路は、平成14年度より表面調査を、平成18年度より試掘調査をそれぞれ開始し、平成21年度には本発掘調査まで終了した。他区間の表面調査は、平成18・21年度に靈山道路、平成23年度に相馬西道路、平成24年度に阿武隈東～阿武隈、靈山道路の一部及び靈山～福島の区間をそれぞれ実施した（『福島県内遺跡分布調査報告14・17・19・20・21』）。阿武隈東道路を除く4区間にについて、試掘調査が必要な箇所は、11箇所の遺跡及び43箇所の遺跡推定地の計54箇所である。

このうち、阿武隈東～阿武隈及び靈山道路の試掘調査は、平成24年度より開始し、平成25年度までに阿武隈東～阿武隈の5箇所の遺跡推定地、靈山道路の4箇所の遺跡及び1箇所の遺跡推定地について終了した（『福島県内遺跡分布調査報告20・21』）。

相馬西道路の試掘調査は、平成25年度より開始し、6箇所の遺跡推定地について終了した（『福島県内遺

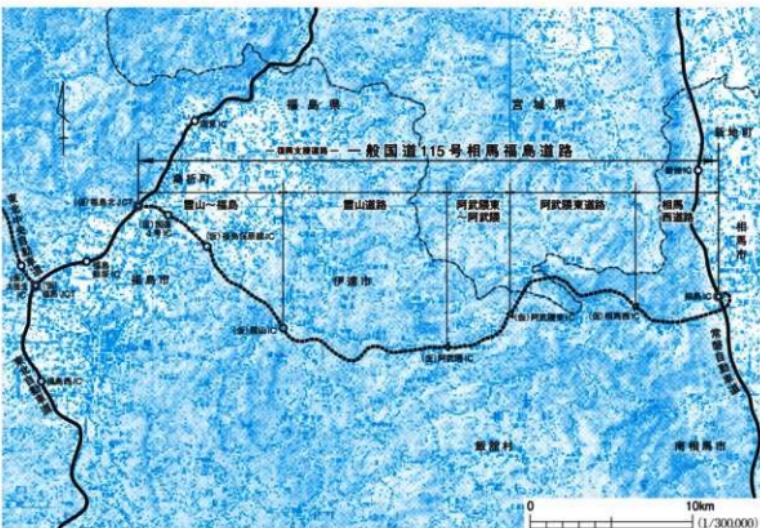


図2 一般国道115号相馬福島道路位置図

跡分布調査報告21]。

平成26年度の試摂調査は、相馬西道路の2箇所、阿武隈東～阿武隈の5箇所、靈山道路の7箇所、靈山～福島の1箇所の計15箇所の遺跡及び遺跡推定地で実施した。

表5 相馬市所在遺跡試掘調査成果一覧

No	道 路 名	道 路 工 内 面 積	平成26年度調査		未試摂面積	平成26年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保 存 面 積		検 出 遗 構	出 土 遺 物
1	SM-B①	7,600m ²	2,650m ²	0m ²	4,100m ²		
2	SM-B⑨	4,600m ²	3,600m ²	1,600m ²	0m ²	土坑、堅穴状遺構	
3	SM-B⑩	11,300m ²	11,300m ²	0m ²	0m ²		縄文土器
4	SM-B⑩ (向山)	25,000m ²	1,600m ²	1,700m ²	0m ²	製鉄炉跡、木炭窯跡、土坑、小穴、性格不明遺構	縄文土器、鐵滓
相馬市 計		48,500m ²	19,150m ²	3,300m ²	4,100m ²		

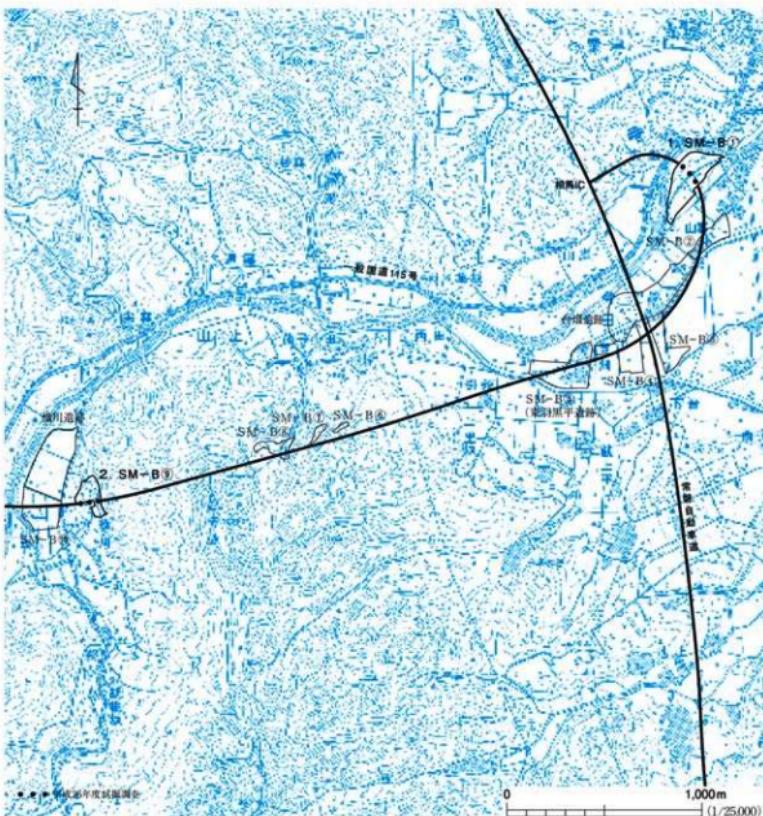


図3 相馬市の遺跡（1）

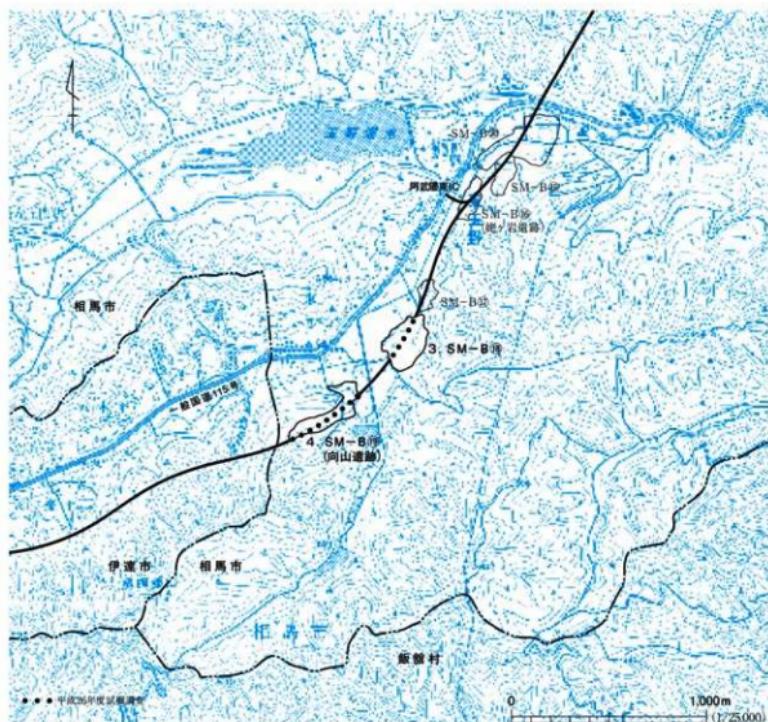


図4 相馬市の遺跡（2）

表6 伊達市所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	道路名	道路工区内 面積	平成26年度調査		未試掘面積	平成26年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	D T - B 18	7,900m ²	7,900m ²	4,300m ²	0m ²	堅穴住居跡、木炭窯跡、土坑	縄文土器
2	D T - B 17	2,400m ²	2,400m ²	500m ²	0m ²	堅穴住居跡、木炭窯跡、土坑。性格不明遺構	
3	D T - B 16	2,200m ²	2,200m ²	0m ²	0m ²		
4	前柳船跡	2,100m ²	300m ²	0m ²	0m ²		
5	D T - B 19	3,700m ²	3,400m ²	0m ²	300m ²		
6	D T - B 20	6,700m ²	6,700m ²	0m ²	0m ²		
7	D T - B 21	18,800m ²	9,900m ²	4,400m ²	8,900m ²	土坑、溝跡、小穴、堅穴状遺構	土師器、陶磁器
8	D T - B 3	3,000m ²	2,700m ²	1,100m ²	300m ²	堅穴住居跡、溝跡、堅穴状遺構	縄文土器、土師器
9	D T - B 22	18,200m ²	5,700m ²	0m ²	12,500m ²		縄文土器
10	山岸遺跡	2,000m ²	400m ²	0m ²	1,600m ²		縄文土器
11	D T - B 28	14,200m ²	6,000m ²	0m ²	8,200m ²		縄文土器、石器
伊達市 計		81,200m ²	47,600m ²	10,300m ²	31,800m ²		

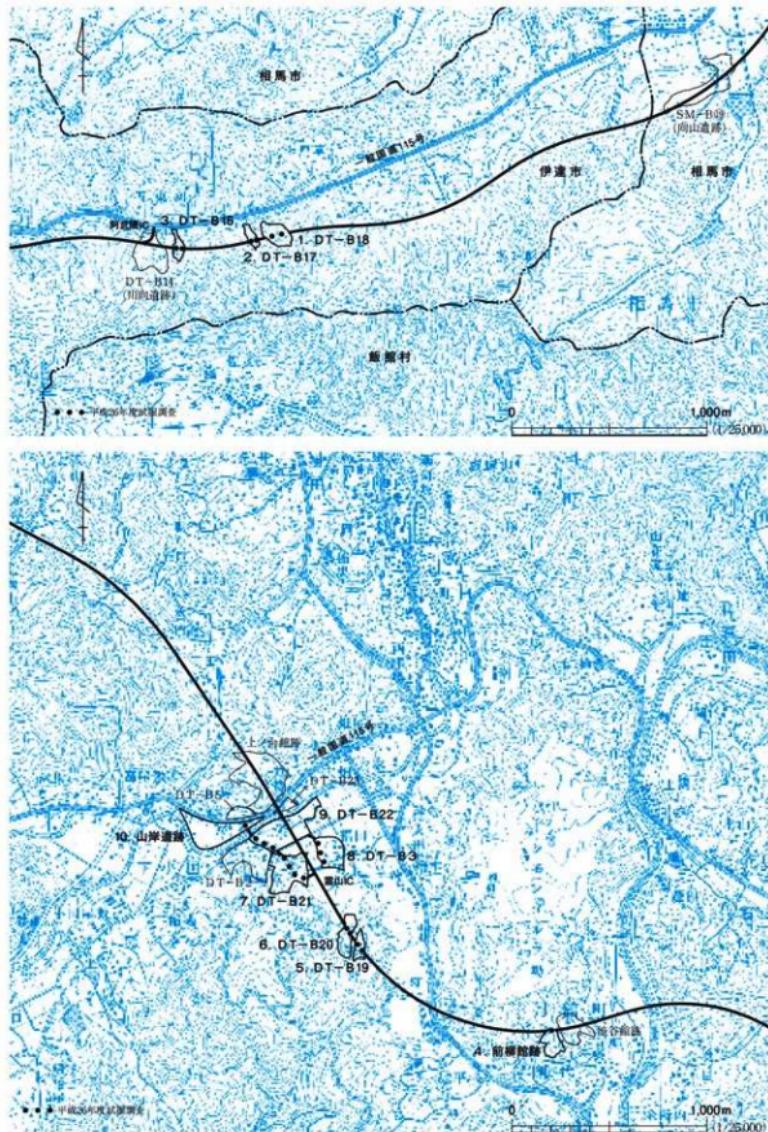


図5 伊達市の遺跡（1）

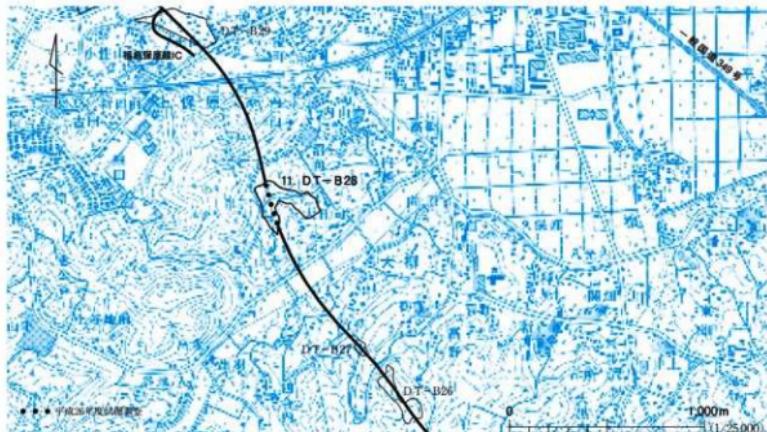


図6 伊達市の遺跡（2）

(1) 相馬市の遺跡

1. SM-B① (第2・3次調査)

所 在 地 相馬市山上字荒屋舗

調査対象面積 2,650m² トレンチ数 8本保 存 面 積 0m²

調 査 期 間 平成26年10月6日～7日

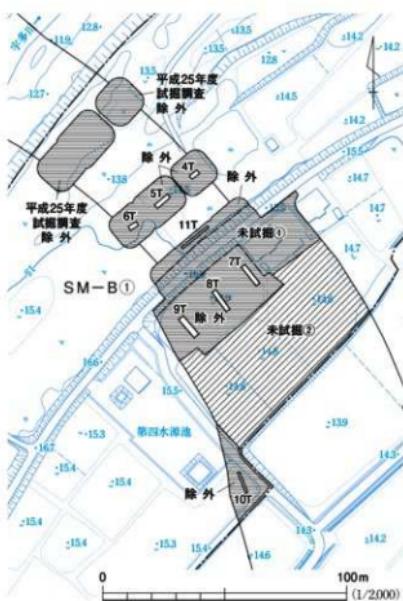
平成26年12月8日～9日

検 出 遺 構 なし

出 土 遺 物 なし

[概 要] SM-B①は、平成23年度の表面調査において、土器片の破片が採取されたことから、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告書19』)。宇多川右岸の氾濫原～沖積地に立地し、現況は畑・荒地である。

[ま と め] 試掘調査の結果、各トレンチの表土直下が氾濫原の砂層・礫層であり、遺構・遺物は確認されなかった。よって、今回の工区内調査範囲は、遺跡として扱わない。未試掘①(1,000m²)も周辺の試掘調査結果から保存対象外とした。なお、未試掘②(3,100m²)は試掘調査の必要がある。



2. SM-B⑨[横川B遺跡] (第2次調査)

所在地 相馬市山上字横川

調査対象面積 3,600m² トレンチ数 8本保存面積 1,600m²

調査期間 平成26年12月10日～12日

検出遺構 土坑、竪穴状遺構

出土遺物 なし

[概要] SM-B⑨は、平成23年度の表面調査において、縄文土器の破片が採取されたことから新たに追加された遺跡推定地である(「福島県内遺跡分布調査報告19」)。本遺跡推定地の約70m西側には、周知の遺跡である横川遺跡が位置する。丘陵の西向き斜面に立地し、現況は山林・畠・荒地である。平成26年度の試掘調査は、工区内の3,600m²を対象に、トレンチ8本を設定して行った。

[遺構・遺物] 調査区西部(5～7T)は、土地造成による開削を受けているが、5Tから土坑3基、6Tから土坑2基、7Tから竪穴状遺構1基を確認した。各遺構の検出面は、7Tが基盤層としたにぶい黄褐色土層(Ⅲ層)上面で、開削によりⅢ層が失われている5・6Tが明黄褐色土層(Ⅳ層)上面である。各トレンチから出土遺物は確認されなかったが、一部掘り込みを行った5Tの土坑は、規模や形状及び堆積土などから縄文時代の貯蔵穴の可能性がある。なお、調査区東部(8～12T)は、遺構・遺物は確認されなかった。

[まとめ] 試掘調査の結果、調査区内において遺構・遺物を確認した調査区西部(5～7T)の1,600m²



1 5号トレンチ土坑断面（北東から）

表7 SM-B⑨トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類 (時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
5T	土坑(縄文)	50cm	○	
6T	土坑	30cm	×	
7T	竪穴状遺構	70cm	○	

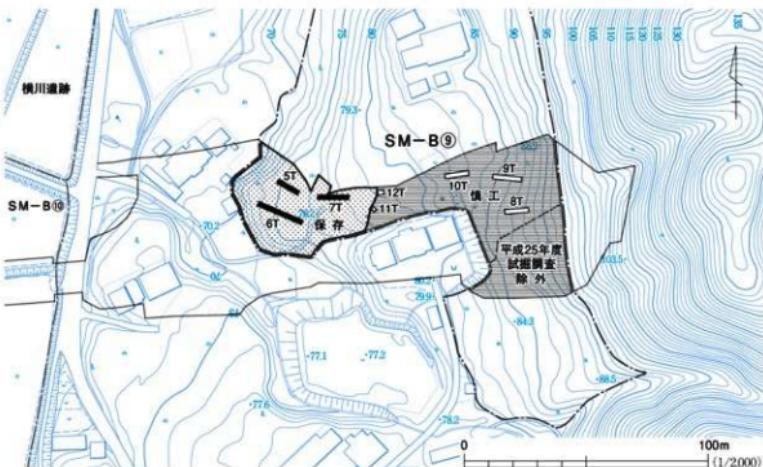


図8 SM-B⑨トレンチ配置図

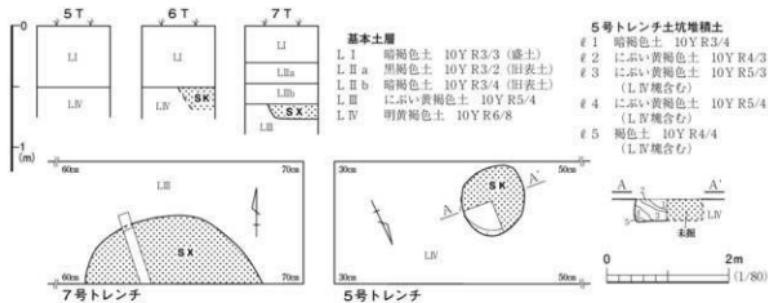


図9 SM-B⑨検出遺構・土層柱状図

については、保存の必要がある。本遺跡推定地は、横川B遺跡として登録する。これ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

3. SM-B⑩

所在地 相馬市東玉野字矢立沢

調査対象面積 11,300m²

トレンチ数 25本

保存面積 0m²

調査期間 平成26年7月28日～8月7日

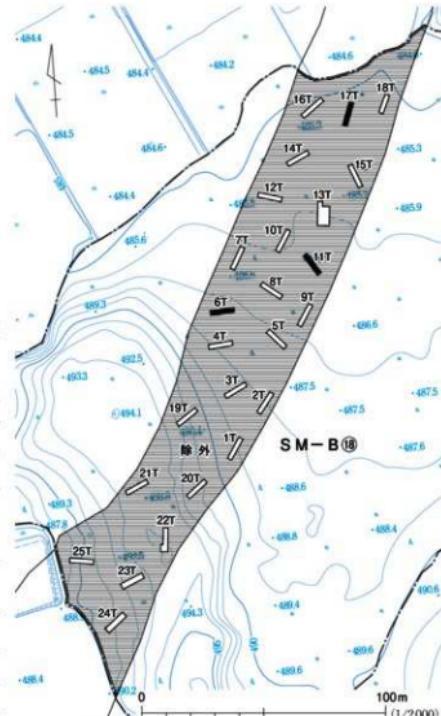
平成26年12月16日～22日

検出遺構 なし

出土遺物 繩文土器

[概要] SM-B⑩は、平成24年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告書20』）。北に細長く張り出す丘陵及びその東側の開析谷に形成された北向き緩斜面に立地し、現況は山林である。調査区北部では、現地表面でも小規模な流路が観察され、12～18Tでは、谷部に堆積した砂礫層や丘陵部からの再堆積土が確認された。

[まとめ] 試掘調査の結果、6・11・17Tから繩文土器片が各1点出土したが、これ以外に各トレンチから遺構・遺物は確認されなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。



4. SM-B⑯[向山遺跡] (第2・3次調査)

所 在 地 相馬市東玉野字向山・町裏
調査対象面積 1,600m² **トレンチ数** 7本
保 存 面 極 1,700m²
調査期間 平成26年4月24日～25日
 平成26年6月17日～20日
検出遺構 製鉄炉跡、木炭窯跡、土坑、小穴、性格不明遺構

出 土 遺 物 繩文土器、鉄滓

[概 要] SM-B⑯は、平成24年度の表面調査において、鉄滓が採取されたことから新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。丘陵～丘陵裾部に立地し、現況は山林・畑である。平成25年度の第1次試掘調査では、遺構・遺物が確認された5,300m²を保存範囲とし、向山遺跡として登録した(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。

[遺構・遺物] 調査区北東部～中央部(45～49T)では、46Tから土坑・小穴、47～49Tから土坑を確認し



図11 SM-B⑯ (向山遺跡) トレンチ配置図・土層柱状図



2 51号トレンチ製鉄炉跡検出状況 (東から)

表8 SM-B⑯ (向山遺跡) トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類 (時代)	確認面までの深さ	道構内掘込み	
46T	土坑・小穴	40cm	×	
47T	土坑	30cm	×	縄文土器
48T	土坑	40cm	×	
49T	土坑	40cm	×	
51T	製鉄炉跡、木炭窯跡、性格不明遺構	20cm	×	鉄滓

た。各遺構の検出面は、基盤層とした黄褐色土層(Ⅲ層)上面で、現地表面から遺構検出面までの深さは、30~50cmである。また、47Tから縄文土器片1点が出土した。調査区南西部に設定した51Tでは、鉄滓が出土する範囲が平成25年度の調査区に広がることから、トレンチを西側へと延長し検出を行ったところ、製鉄炉跡・木炭窯跡・性格不明遺構を確認した。各遺構の検出面は、褐色土層(Ⅱ層)上面で、現地表面から遺構検出面までの深さは約20cmである。なお、51Tよりさらに西側に設定した50Tでは、遺構・遺物は確認されなかった。

[まとめ] 試掘調査の結果、遺構・遺物を確認した今回の調査区(1,600m²)及び51T周辺(100m²)の計1,700m²については、保存の必要がある。保存範囲は、向山遺跡に含めて登録する。

なお、平成26年度に、今回の確定した保存面積1,700m²を含め4,850m²の本発掘調査が実施され、保存範囲すべての調査が終了している。

(2) 伊達市の遺跡

1. DT-B18[庚申向A遺跡]

所 在 地 伊達市靈山町石田字庚申向

調査対象面積 7,900m² トレンチ数 16本

保 存 面 積 4,300m²

調 査 期 間 平成26年8月19日~9月10日

検 出 遺 構 堪穴住居跡、木炭窯跡、土坑

出 土 遺 物 縄文土器

[概 要] DT-B18は、平成24年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告書20』)。北西方向に伸びる丘陵を分断する開析谷に形成された北西向き緩斜面に立地し、現況は桑畑・山林である。なお、本遺跡推定地の中央には、北西方向に流れる深い沢があり、周囲の緩斜面との比高差は3~4mである。

平成26年度の試掘調査は、工区内全城の7,900m²を対象に、トレンチ16本を設定して行った。

[遺構・遺物] 遺構は、調査区東部(1~13T)の、1~8Tで土坑各1基、2~10Tで堪穴住居跡各1軒、13Tで木炭窯跡2基を確認した。各遺構の検出面は、基盤層とした黄褐色土層(Ⅲ層)上面で、現地表面から遺構検出面までの深さは、40~60cmである。このうち、2Tで確認した堪穴住居跡は、一部掘り込みを行った際に縄文時代晚期頃の土器片が出土しているため、当該期の所産と考えられる。13Tで確認した木炭窯跡は、焼成室の形状は円形で、壁面は赤く焼けている。また、作業場の堆積土には木炭が多く含まれている。同トレンチからは、縄文土器片が2点出土したが、木炭窯跡に関連する遺物は確認されなかった。なお、調査区東部に比して、緩斜面の範囲が狭い調査区西部(14~16T)では、遺構・遺物は確認されなかった。

[まとめ] 試掘調査の結果、調査区内において遺構・遺物を確認した調査区東部(1~13T)の4,300m²



3 調査区全景(東から)

表9 DT-B18トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
1T	土坑	60cm	×	
2T	堪穴住居跡(縄文)	50cm	○	縄文土器
8T	土坑	40cm	×	
9T				縄文土器
10T	堪穴住居跡	40cm	×	
13T	木炭窯跡	60cm	×	縄文土器

については、保存の必要がある。本遺跡推定地は、庚申向A遺跡として登録する。これ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、確定した保存面積4,300m²のうち、1,700m²を対象として平成26年度に本発掘調査を実施した。

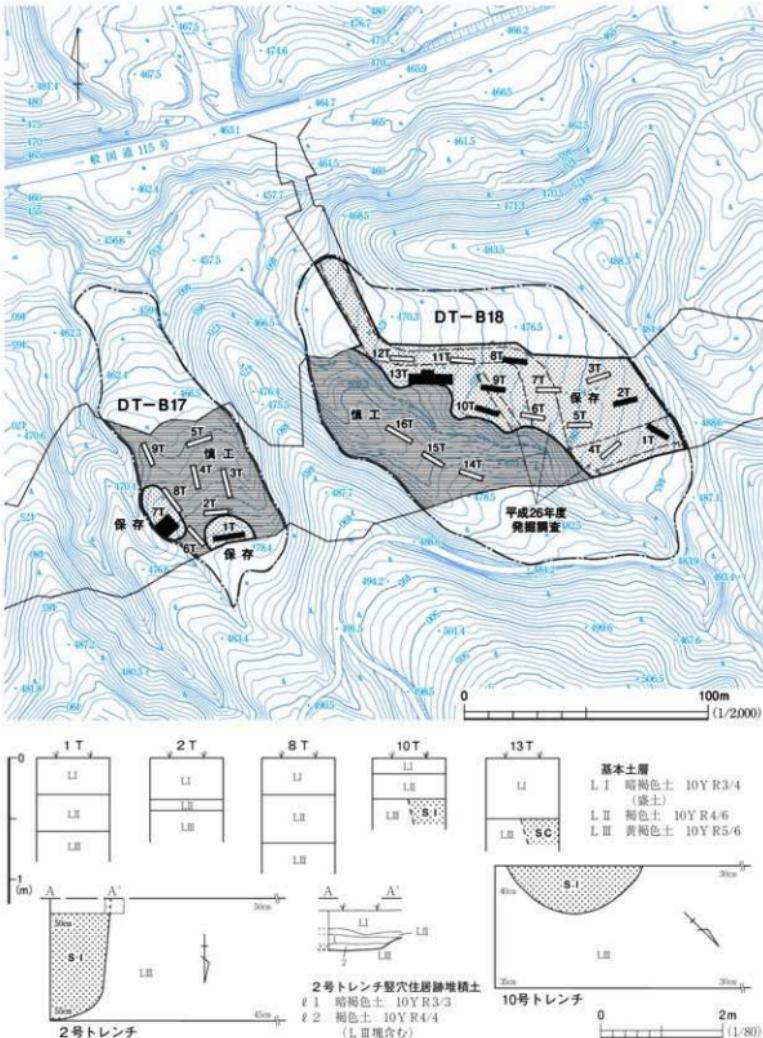


図12 DT-B18トレンチ配置図・検出構造・土層柱状図、DT-B17トレンチ配置図

2. DT-B17[庚申向B遺跡]

所 在 地 伊達市靈山町石田字庚申向
調査対象面積 2,400m² **トレンチ数** 9本
保 存 面 積 500m²
調査期間 平成26年8月28日～9月10日
検出遺構 堪穴住居跡、木炭窯跡、土坑、性格不明遺構

出土遺物 なし

[概 要] DT-B17は、平成24年度の表面調査の際に、土師器の破片が採取されたことから、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。北西方向に延びる丘陵を分断する開析谷に形成された北西向き緩斜面に立地し、現況は山林である。平成26年度の試掘調査は、工区内全域の2,400m²を対象に行った。

[遺構・遺物] 遺構は、1Tで土坑1基、7Tで堪穴住居跡1軒、木炭窯跡1基、性格不明遺構2基を確認した。性格不明遺構は、炭化物が多く堆積し、底面が赤く焼けているものも認められる。これらの性格不明遺構及び堪穴住居跡は、木炭窯跡に関連する遺構と推測される。なお、各トレンチから出土した遺物はなく、1・7T以外のトレンチからは、遺構も確認されなかった。

[ま と め] 試掘調査の結果、調査区内において遺構を確認した1T周辺の200m²と、7T周辺の300m²、併せて500m²については、保存の必要がある。本遺跡推定地は、庚申向B遺跡として登録する。これ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

3. DT-B16

所 在 地 伊達市靈山町石田字庚申向
調査対象面積 2,200m² **トレンチ数** 6本
保 存 面 積 0m²

[概 要] DT-B16は、平成24年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。丘陵地を東西に分断する開析谷に形成された北向き緩斜面に立地



図4 7号トレンチ堪穴住居跡検出状況(南から)

表10 DT-B17トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構	出土遺物
種類(時代)	確認面までの深さ	追積内掘込み
1T 土坑	50cm ○	
7T 堪穴住居跡、木炭窯跡、性格不明遺構	20cm ×	

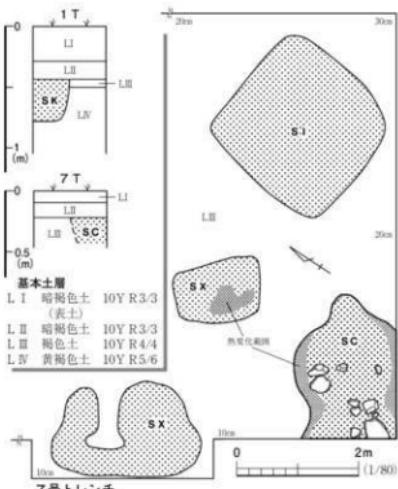


図13 DT-B17検出遺構・土層柱状図

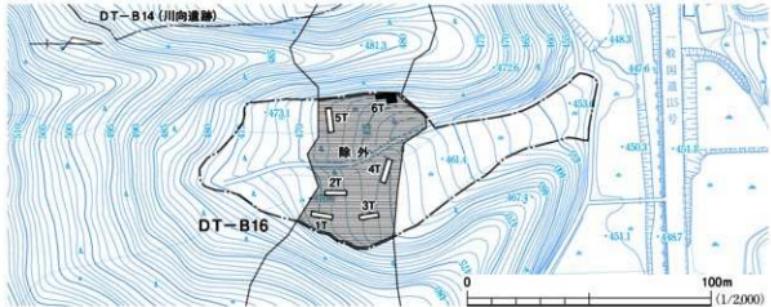


図14 DT-B16トレーナ配置図

し、現況は荒地である。平成26年度の試掘調査は、工区内全域の2,200m²を対象に、トレッセ6本を設定して行った。堆積土を観察すると、1・3・6Tで旧表土、1Tで丘陵部からの再堆積土が確認された。

【まとめ】 試掘調査の結果、各トレンチから遺物は確認されなかった。遺構は、6Tから木炭跡が検出されたが、5~10cmと薄く堆積する表土直下から掘り込まれていることから、近現代の所産であると考えられる。のことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。

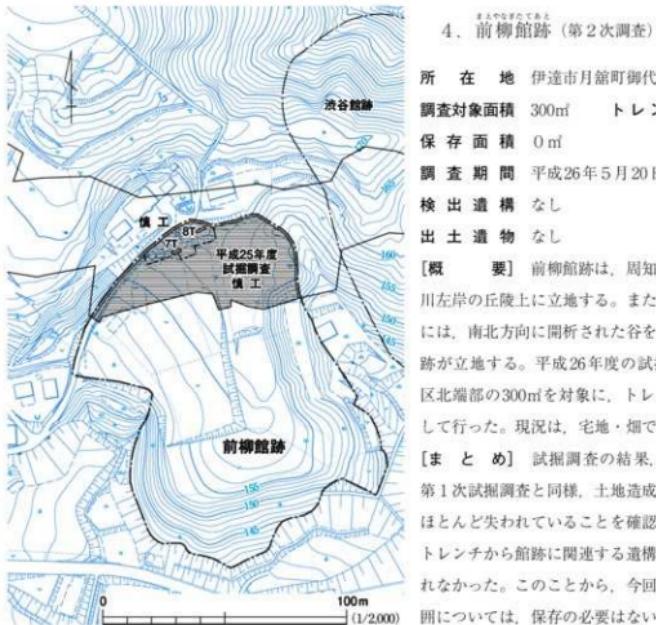


図15 前柳館跡トレンチ配図

所 在 地 伊達市月館町御代田字駒作

調査対象面積 300m²

保存面積 0 ml

調査期間 平成26年5月20日

榆出遺稿

出土遺物 1

[概 要] 前柳館跡は、周知の遺跡で、広瀬川左岸の丘陵上に立地する。また、東側の丘陵上には、南北方向に開削された谷を挟んで、渋谷館跡が立地する。平成26年度の試掘調査は、調査区北端部の300m²を対象に、トレンチ2本を設定して行った。現況は、土塹・烟である。

[まとめ] 試掘調査の結果、平成25年度の第1次試掘調査と同様、土地造成により旧地形がほとんど失われていることを確認した。また、各トレンチから館跡に関連する遺構・遺物は確認されなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、保存の必要はないが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

5. DT-B19

所 在 地 伊達市靈山町下小国字山田入

調査期間 平成26年6月3日～5日

調査対象面積 3,400m²

トレンチ数 11本

検出遺構 なし

保 存 面 積 0m²

出土遺物 なし

[概 要] DT-B19は、平成24年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である〔福島県内遺跡分布調査報告21〕。丘陵裾部に立地し、現況は山林である。平成26年度の試掘調査は、工区内の3,400m²を対象に、トレンチ11本を設定して行った。

[ま と め] 試掘調査の結果、各トレンチは現表土直下が基盤層で、旧表土の形成もなく、遺構・遺物は確認されなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、道路として扱わない。また、3箇所に分かれる未試掘部(計300m²)の範囲についても、周辺の試掘調査結果から遺跡として扱わない。

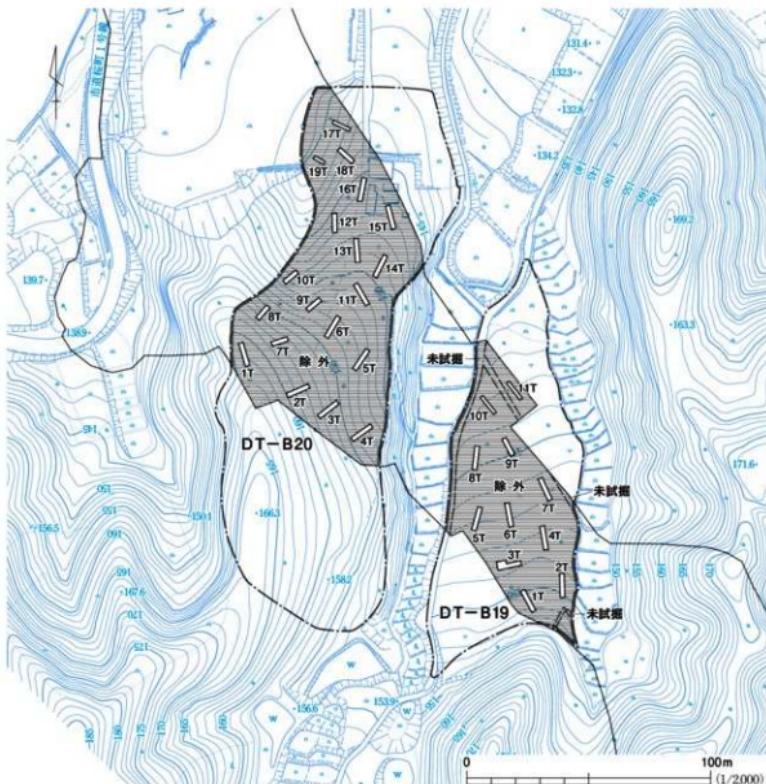


図16 DT-B19・B20トレンチ配置図

6. DT-B20

所 在 地 伊達市靈山町下小国字山田入・前山

調査対象面積 6,700m² トレンチ数 19本 保 存 面 積 0m²

調査期間 平成26年5月26日～6月3日 検出遺構なし 出土遺物なし

[概要] DT-B20は、平成24年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。丘陵北向き緩斜面に立地し、現況は山林・果樹園・宅地である。平成26年度の試掘調査は、工区内全域の6,700m²を対象に、トレンチ19本を設定して行った。

[まとめ] 試掘調査の結果、ほとんどのトレンチが現表土直下で基盤層が露出し、4T以外では旧表土は確認されなかった。また、各トレンチから、遺構・遺物は確認されなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。

7. DT-B21[沼ヶ入遺跡]

所 在 地 伊達市靈山町下小国字沼ヶ入・御渡

調査対象面積 9,900m² トレンチ数 30本保 存 面 積 4,400m²

調査期間 平成26年6月20日～7月1日

平成26年7月22日

平成26年12月1日～4日

検出遺構 土坑、溝跡、小穴、堅穴状遺構

出土遺物 土師器、陶磁器

[概要] DT-B21は、平成24年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。小国川右岸の段丘面に立地し、現況は畑・宅地・水田である。

平成26年度の試掘調査は、工区内の9,900m²を対象に、トレンチ30本を設定して行った。

調査区東部(12～17・22T)や調査区西部(2・19～21T)では、表土及び盛土の直下に湿地性のグライ化した粘質土や砂層が堆積し、トレンチ周辺の水田部は南北方向に開析された谷地形であることを確認した。

[遺構・遺物] 遺構は、調査区南部に設定した10・18Tから溝跡2条、11Tから土坑1基を確認した。溝跡は、2条が沿うように検出されたが、そのうちの1条は幅260～380cmで、底面が平坦な形状を呈する。調査区北部(23～30T)は、28T周辺を除くほぼ全域が土地造成による開削を受けているが、各トレンチから土坑・溝跡などの遺構を確認した。なお、各遺構から遺物の出土は認められなかった。このほか、15Tから土師器片1点が出土したが、旧水田耕作土中からの出土で、他所からの混入と思われる。



5 調査区南部全景(南東から)

表11 DT-B21トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種類 (時代)	確認面までの深さ	遺構内 掘込み	
10T	溝跡	60cm	○	
11T	土坑	60cm	○	
15T				土師器
18T	溝跡	40cm	×	
23T	土坑、小穴	35cm	×	
24T	小穴	30cm	×	
25T	土坑、溝跡、小穴	30cm	×	
26T	堅穴状遺構	20cm	○	陶磁器
27T	小穴	20cm	×	
28T	小穴	55cm	×	
29T	溝跡、小穴	30cm	×	
30T	小穴	50cm	×	

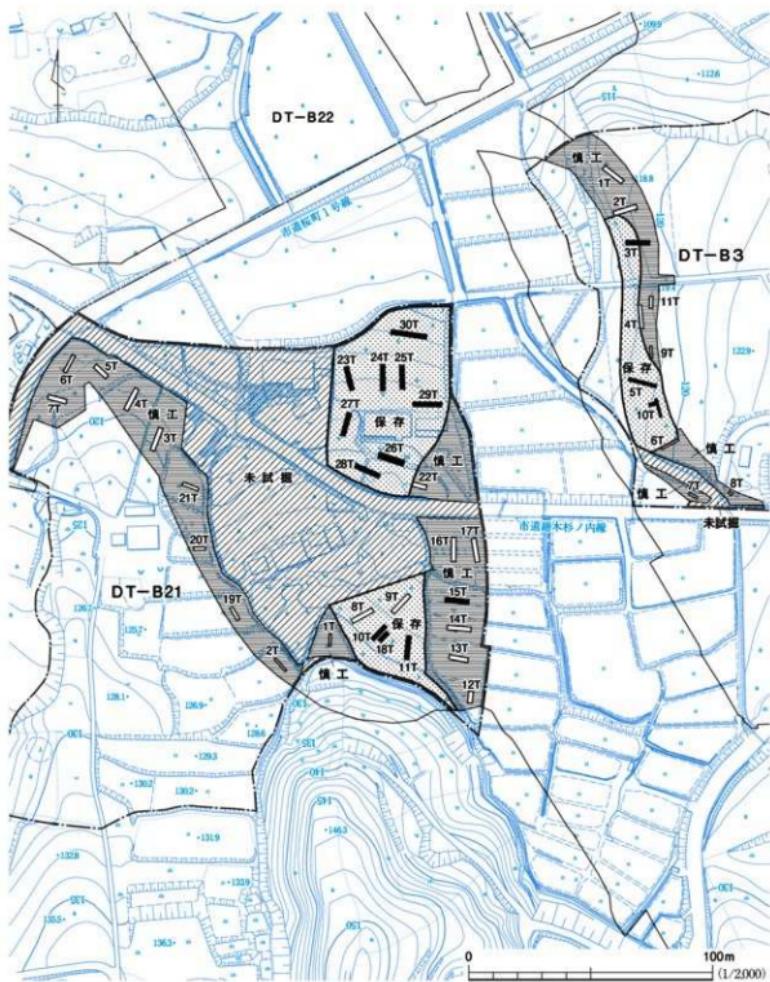


図17 DT-B3・B21トレーニング配置図

これ以外のトレーニングでは、遺構・遺物は確認されなかった。

[まとめ] 試掘調査の結果、調査区内において遺構を確認した10・11・18T周辺の1,300m²と、23～30T周辺の3,100m²、併せて4,400m²については、保存の必要がある。本遺跡推定地は、沼ヶ入遺跡として登録する。これ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、本遺跡推定地の未試掘範囲は、8,900m²である。

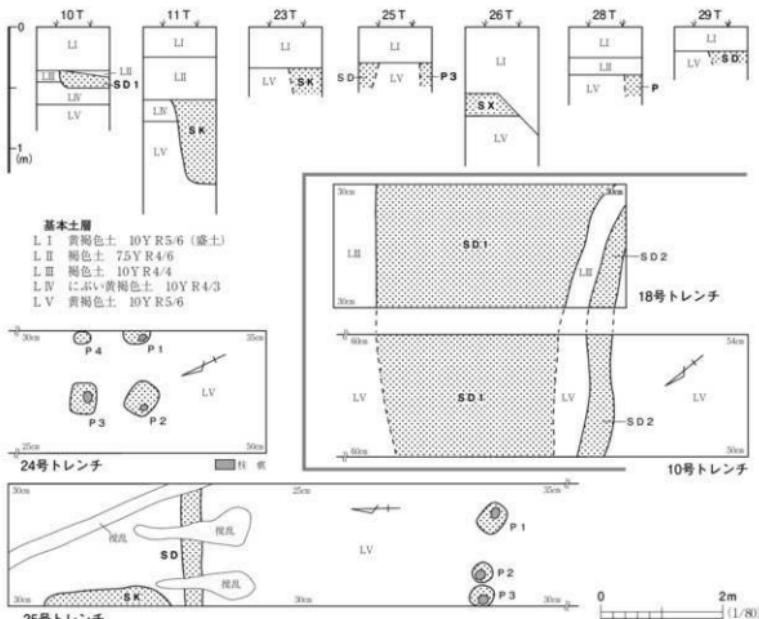


図18 DT-B21検出遺構・土層柱状図

8. DT-B3 [福田遺跡]

所在地 伊達市雲山町下小国字福田・桜町

調査対象面積 2,700m² トレンチ数 11本保存面積 1,100m²

調査期間 平成26年5月1日～26日

平成26年6月17日～20日

検出遺構 堪穴住居跡、溝跡、竪穴状遺構

出土遺物 繩文土器、土師器

[概要] DT-B3は、平成18年度の表面調査の際に、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告14』)。小国川右岸の段丘面に立地し、現況は果樹園・畑である。

平成26年度の試掘調査は、工区内の2,700m²を

対象に、トレンチ11本を設定して行った。調査区北部～中央部(1～5・9～11T)は、果樹園造成による開削と盛土がされ、1・2・9・11T及び3Tの東半部では旧地形が失われ、厚さ50～100cmの表土及び



6 調査区全景(南東から)

表12 DT-B3トレンチ一覧

トレンチ番号	種類 (時代)	検出遺構		出土遺物
		確認面までの深さ	道構内 掘込み	
3T	溝路	60cm	○	縄文土器、土師器
5T	竪穴住居跡	80cm	○	縄文土器、土師器
10T	竪穴状遺構	60cm	○	土師器

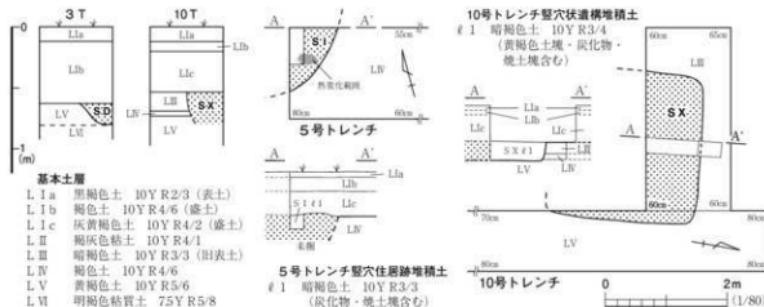


図19 D T-B3検出遺構・土層柱状図

盛土の直下に基盤層の明褐色粘質土層(Ⅵ層)や砂質土層が確認された。遺構・遺物は、開削が比較的小規模だった3Tの西半部及び5・10Tで確認された。一方、調査区南部(6~8T)では、表土及び盛土の直下に湿地性のグライ化した粘質土や砂層が堆積し、トレンチ周辺は北西方向に開析された谷地形であることを確認した。

[遺構・遺物] 3Tでは、幅25~45cm、深さ約15cmの溝跡が1条確認された。トレンチと直交

するように南北に延びるが、2Tでは確認されなかった。5Tでは、縦穴住居跡が1軒確認された。壁際が赤く焼けており、カマドの可能性がある。10Tでは、一辺約240cmの方形を呈する縦穴状遺構が1基確認された。各遺構に伴う遺物ではなく、詳細な時期は不明だが、3Tから出土した高台が付く土器・土器・5Tの縦穴住居跡の特徴から、古代の可能性がある。なお、これ以外のトレンチでは、遺構・遺物は確認されなかった。

[まとめ] 試掘調査の結果、遺構・遺物を確認した3・5・10T周辺の1,100m²については、保存の必要がある。本遺跡推定地は、福田遺跡として登録する。これ以外は保存対象外とするが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、調査区南部の未試掘部(300m²)は、周辺の試掘調査結果から、保存対象外とした。

9. DT-B22

所 在 地 伊達市雲山町下小国字荒屋敷・桜町・沖

調査対象面積 5,700m² **トレンチ数** 16本 **保 存 面 積** 0m²

調査期間 平成26年7月2日~25日 **検出遺構** なし **出 土 遺 物** 繩文土器

[概 要] DT-B22は、平成24年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。小国川右岸の段丘面に立地し、現況は果樹園・畑・宅地である。

平成26年度の試掘調査は、工区内の5,700m²を対象に、トレンチ16本を設定して行った。1~11・15・16Tでは、果樹園造成による盛土及び旧水田耕作土が55~160cmの厚さで堆積し、その下には湿地性のグラ



7 10号トレンチ縦穴状遺構検出状況(東から)

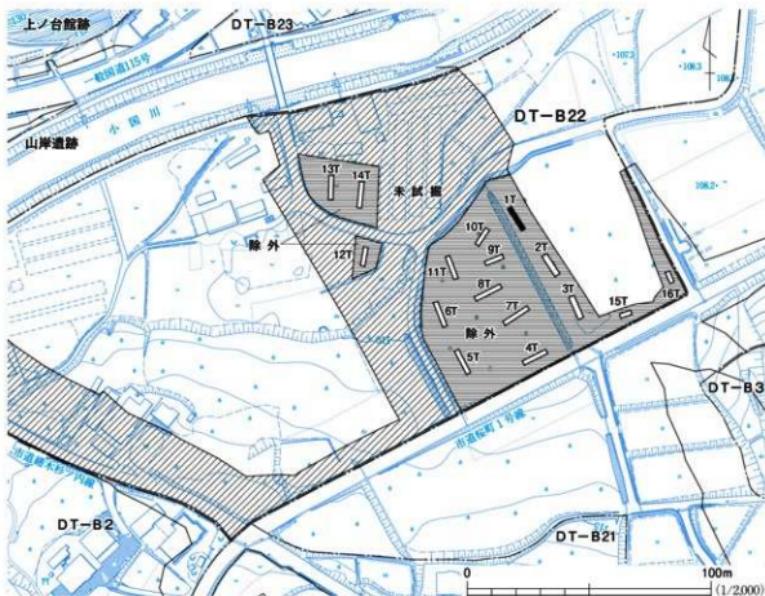


図20 DT-B22トレーニング配置図

化した粘質土や砂層が堆積している。12～14Tは、畑の耕作土直下が氾濫原の砂層・礫層である。

[まとめ] 試掘調査の結果、各トレーニングから遺構は確認されなかった。遺物は、1Tから縄文土器片1点が出土したが、旧水田耕作土中からの出土で、他所からの混入と思われる。このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。なお、本遺跡推定地の未試掘範囲は、12,500m²である。

10. 山岸遺跡

所 在 地 伊達市靈山町下小国字山岸・清水 調 査 期 間 平成26年6月10日～16日

調査対象面積 400m² トレーニング数 2本 検出 遺構 なし

保 存 面 積 0m² 出 土 遺 物 縄文土器、石器

[概 要] 山岸遺跡は、平成18年度の表面調査で、縄文土器・土師器などが採取されたことから埋蔵文化財包蔵地台帳に登録した遺跡である（〔福島県内遺跡分布調査報告14〕）。小国川左岸の段丘面に立地し、現況は畑・荒地である。平成26年度の試掘調査は、工区内の400m²を対象に、トレーニング2本を設定して行った。

[まとめ] 試掘調査の結果、1・2Tとも約70cmの厚さで堆積する盛土及び旧水田耕作土の直下には、暗褐色の砂層・礫層が堆積し、遺構は確認されなかった。遺物は、1Tから縄文土器片1点と石器1点、2Tから縄文土器片1点が出土したが、河川の氾濫などによって流れ込んできたものと思われる。

このことから、今回の工区内調査範囲については、保存の必要はないが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。なお、本遺跡推定地の未試掘範囲は、1,600m²である。

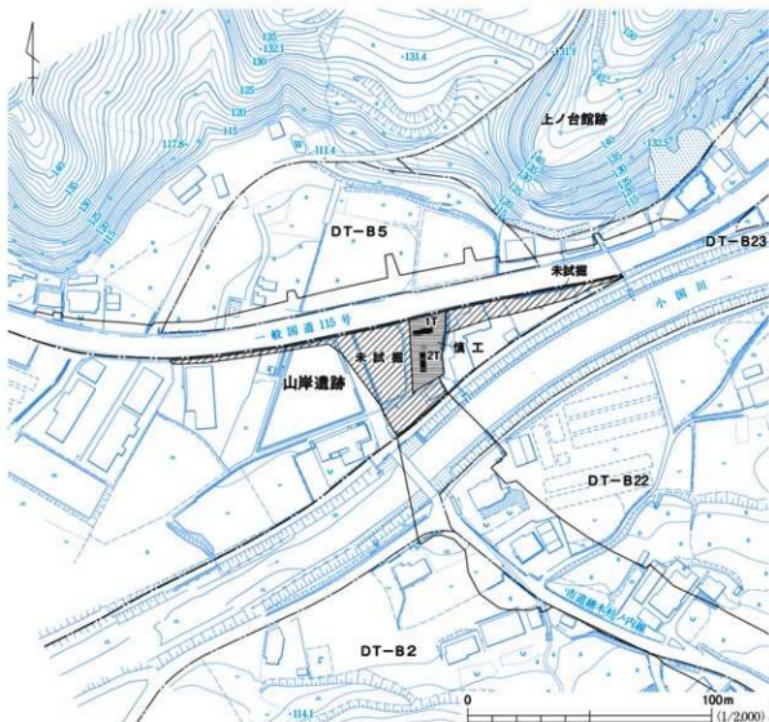


図21 山岸遺跡トレンチ配置図

11. D T - B 28

所 在 地 伊達市保原町上保原字将帰坂

調 査 期 間 平成26年10月20日～31日

調査対象面積 6,000m²

トレンチ数 23本

検 出 騒 構 なし

保 存 面 積 0m²

出 土 遺 物 なし

[概 要] D T - B 28は、平成24年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。標高95～104mの丘陵頂部に立地し、現況は果樹園・畠・荒地である。平成26年度の試掘調査は、工区内の6,000m²を対象に、トレンチ23本を設定して行った。

[ま と め] 試掘調査の結果、調査区の全域が果樹園造成による開削と盛土がされており、旧地形がほとんど失われていることを確認した。また、各トレンチから遺構・遺物は確認されなかった。このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。また、未試掘①(200m)の範囲についても、周辺の試掘調査結果から遺跡として扱わない。なお、調査区北部の未試掘②(3,400m²)及び調査区南部の未試掘③(4,600m²)の計8,000m²は、試掘調査の必要がある。

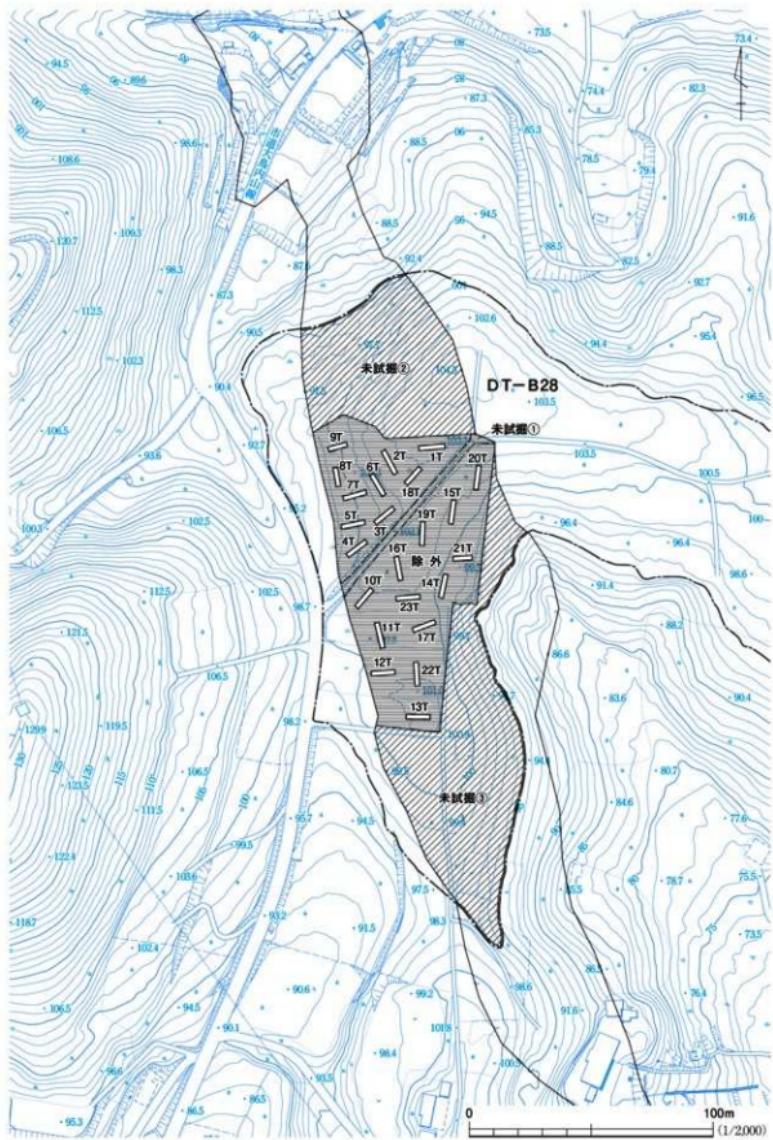


図22 DT-B28トレンチ配置図

第2節 地域高規格道路(会津縦貫南道路)建設予定地

会津縦貫南道路は、会津若松市から南会津郡下郷町を経て、南会津郡南会津町に至る総延長約50kmの地域高規格道路で、将来的には北は山形県米沢市と、南は栃木県日光市と結ばれる計画となっている。会津地方の南北軸となる一般国道121号の機能を強化することにより、地域の活性化を図ることを目的としている。福島県が事業主体となり、平成14年度に小沼崎バイパス(1.5km)、平成19年度に湯野上バイパス(8.3km)が一般国道改築事業として着手された。このうち、湯野上バイパス(8.3km)は、平成24年度から国土交通省の直轄事業として進められている。

会津縦貫南道路に関する埋蔵文化財の調査は、平成18・19年度に表面調査を実施し(『福島県内遺跡分布調査報告13・14』)、平成24年度から試掘調査を開始した(『福島県内遺跡分布調査報告20』)。

平成26年度の試掘調査は、下郷町内のC G - B 13の1箇所を対象に実施した。

表13 下郷町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺跡名	遺跡工区内面積	平成26年度調査		未試掘面積	平成26年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	C G - B 13	11,700m ²	600m ²	0m ²	11,100m ²		
	下郷町 計	11,700m ²	600m ²	0m ²	11,100m ²		

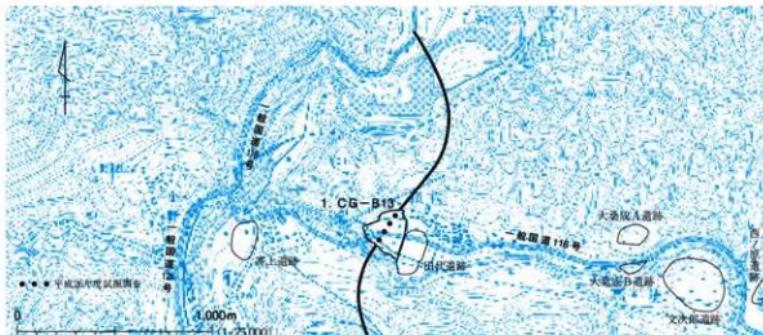


図23 下郷町の遺跡

1. C G - B 13

所 在 地 下郷町高陣字下居平乙

調 査 期 間 平成26年11月4日～12日

調査対象面積 600m² トレンチ数 3本 検出遺構 なし

保 存 面 積 0m² 出 土 遺 物 なし

[概要] C G - B 13は、平成19年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告14』)。鶴沼川右岸の段丘面に立地し、現況は畑・水田である。本遺跡推定地の東側には、周知の遺跡である田代遺跡が隣接する。

平成26年度の試掘調査は、工区内の600m²を対象に、トレンチ3本を設定して行った。

【まとめ】 試掘調査の結果、各トレンチの現水田耕作土及び盛土の直下が基盤層で、は場整備の開削により旧表土が失われていることを確認した。また、各トレンチから遺構・遺物は確認されなかった。

このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。なお、本遺跡推定地の未試掘範囲は、11,100m²である。

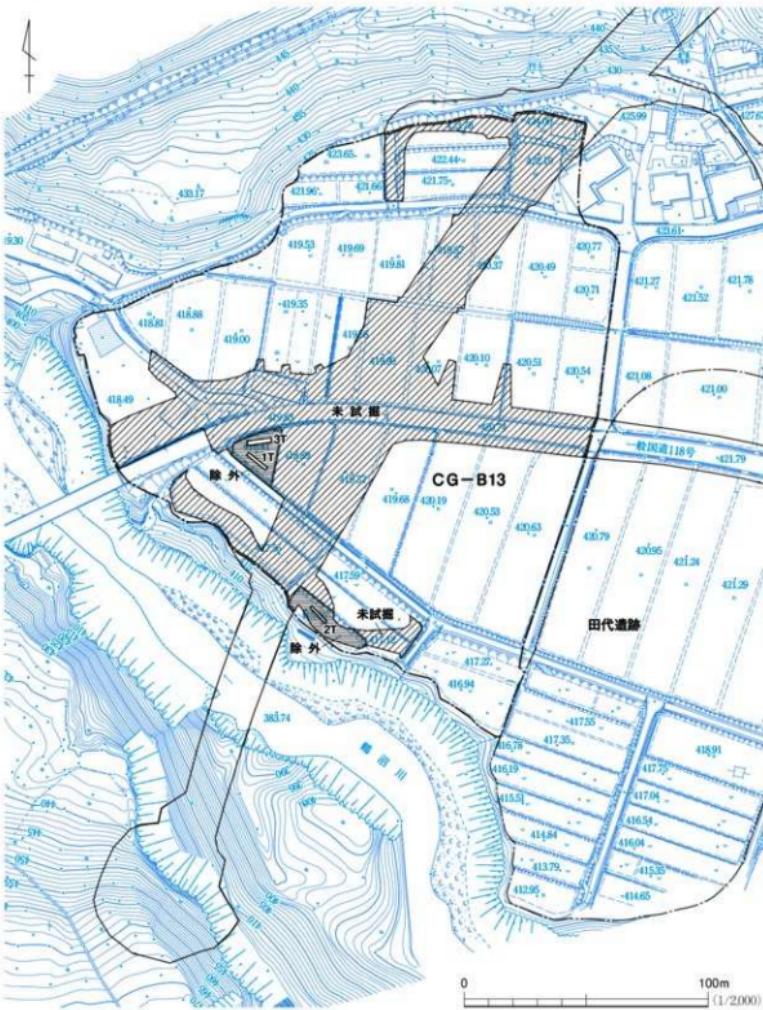


図24 CG-B13トレンチ配置図

第3節 一般国道118号バイパス建設予定地

一般国道118号バイパスの予定路線は、岩瀬郡鏡石町蒲之町・深内町から須賀川市橋・松塙地区までの総延長約4kmに及ぶ。現在、福島県土木部県中建設事務所によって事業が進められている。福島県教育委員会は、一般国道118号バイパスに関する表面調査を平成20年度に実施し、鏡石町では2箇所の遺跡の遺跡範囲を拡大し、新発見の遺跡推定地を4箇所確認した(『福島県内遺跡分布調査報告15』)。

平成25年度及び平成26年度の試掘調査は、江泉館跡及びK1-B1を対象とした。

表14 鏡石町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺跡名	遺跡工区内面積	平成25・26年度調査		未試掘面積	平成25・26年度検出遺物・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	江泉館跡	12,400m ²	700m ²	0m ²	0m ²		
2	K1-B1	1,500m ²	150m ²	0m ²	0m ²		土器類、須恵器
鏡石町 計		13,900m ²	850m ²	0m ²	0m ²		

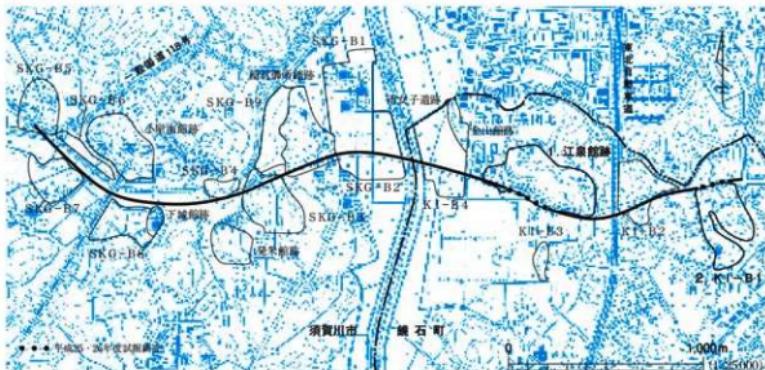


図25 鏡石町・須賀川市の遺跡

1. 江泉館跡 (第4次調査)

所在地 鏡石町深内町

調査期間 平成26年3月4日

調査対象面積 700m² トレンチ数 2本

検出遺構 なし

保存面積 0m²

出土遺物 なし

[概要] 江泉館跡は、館跡及び深内板碑群として埋蔵文化財包蔵地台帳に登録された遺跡である。館跡は鏡石町の北西の丘陵頂部から沖積地にあり、昭和50年代後半に行われた鏡石町史編纂の際に実測調査が行われ、その際に板碑群も確認されている。館跡の構築年代は、板碑群の紀年銘などから13世紀後半から14世紀初頭と推定されている。

平成20年度に実施した表面調査の結果、館跡・板碑群の立地する丘陵のほかに、東側に隣接する丘陵頂部に複数の窪地や平坦面が存在することや、丘陵裾部にも旧地形が残存し、館跡の関連遺構が存在する可能性

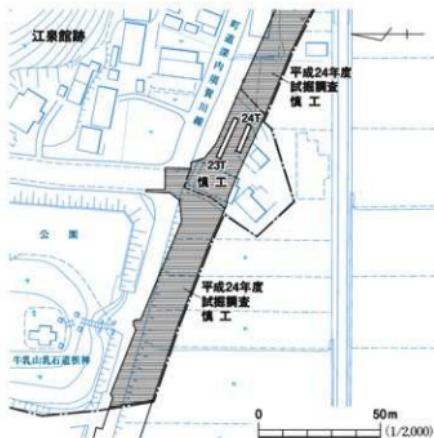


図26 江東館跡トレンチ配置図

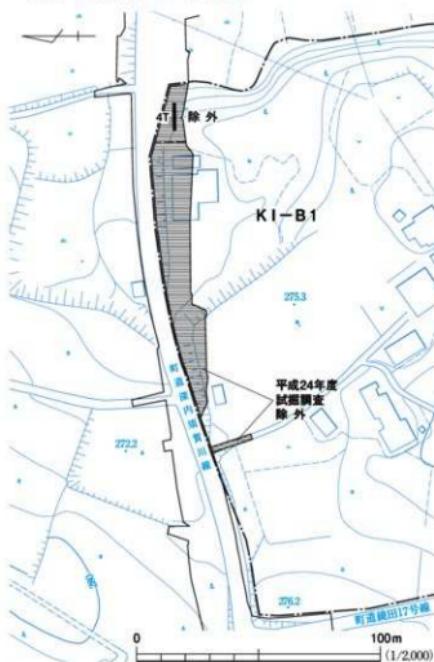


図27 KI-B1トレンチ配置図

が考えられた。このことから、周知の遺跡範囲を拡大した(『福島県内遺跡分布調査報告書15』)。現況は宅地・畠地・水田である。

平成25年度の第4次試掘調査は、工区内の700m²を対象に、トレンチ2本を設定して行った。

[まとめ] 試掘調査の結果、調査区は宅地造成による開削と盛土がされ、旧地形が失われていることを確認した。また、各トレンチから遺構・遺物は確認されなかった。

このことから、今回の工区内調査範囲については、保存の必要はないが、工事などの実施にあたっては慎重に行う必要がある。

2. K I - B 1 (第2次調査)

所 在 地 鏡石町蒲之沢町

調査対象面積 150m² トレンチ数 1本

保 存 面 積 0 m²

調 査 期 間 平成26年6月16日

検 出 遺 構 なし

出 土 遺 物 土師器、須恵器

[概 要] K I - B 1は、平成20年度に実施した表面調査において、鉄滓が採取されたことから、新たに追加された遺跡推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告書15』)。現況は宅地・畠地・山林である。

平成26年度の第2次試掘調査では、工区東端部150m²を対象に、トレンチ1本を設定して行った。

[ま と め] 試掘調査の結果、平成24年度の第1次試掘調査と同様、表土を掘り下げたところで基盤層となる明黄褐色粘質土が露出し、遺構は確認されなかった。遺物は、土師器片・須恵器片が各1点出土したが、いずれも表土中からの出土で、他所からの混入と思われる。このことから、今回の工区内調査範囲については、遺跡として扱わない。

第4節 一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地

一般国道289号の南会津郡下郷町～白河市区間は、那須火山帯に位置する急峻な甲子峠に阻まれ、交通不能区間となっていた。これを解消すべく甲子道路が建設され、平成20年に交通不能区間が開通した。南倉沢バイパスはこの甲子道路の一部であり、下郷町大松川から同南倉沢に至る総長約6.2kmの2車線道路である。現在、福島県土木部南会津建設事務所が事業を進めており、一部の区間は供用している。福島県教育委員会は、一般国道289号南倉沢バイパスに関連する表面調査を平成13年度に実施し、周知の遺跡を2箇所と新発見の遺跡推定地を7箇所確認した（『福島県内遺跡分布調査報告8』）。

平成26年度の試掘調査は、工事計画が変更されたCG-B7（猪番場平遺跡）を対象とした。

表15 下郷町所在遺跡試掘調査成果一覧

No.	遺跡名	遺跡推定地面積	平成26年度調査		未試掘面積	平成26年度検出遺構・出土遺物	
			調査対象面積	保存面積		検出遺構	出土遺物
1	CG-B7 （猪番場平）	28,300m ²	700m ²	0m ²	0m ²		
下郷町 計		28,300m ²	700m ²	0m ²	0m ²		



図28 下郷町の遺跡

1. CG-B7 [猪番場平遺跡] (第3次調査)

所 在 地 下郷町南倉沢字猪番場平 調 査 期 間 平成26年5月16日

調査対象面積 700m² トレンチ数 3本 検出構造なし

保 存 面 積 0m² 出 土 遺 物 なし

[概要] CG-B7は、平成13年度に実施した表面調査において、新たに追加された遺跡推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告8』）。観音川右岸の標高920～960mの段丘面に立地し、現況は山林である。平成13年度及び平成22年度に実施した第1・2次試掘調査では、縄文時代の土坑1基が確認された32T周辺の700m²を保存範囲とした（『福島県内遺跡分布調査報告8・18』）。猪番場平遺跡として登録した。

平成26年度の第3次試掘調査は、工事計画の変更に伴い、保存範囲とした700m²を対象に、再度トレンチ3本を設定して行った。なお、土坑が確認されていた32Tについては、平成13年度に設定した箇所から東西方向に5mずつ延長して調査を実施した。

[まとめ] 試掘調査の結果、各トレンチから新たな遺構・遺物は確認されなかった。このため、過年度の試掘調査で検出していた32Tの土坑のみを調査・記録作成した。土坑の規模は、長軸約100cm、短軸約60cmで、検出面からの深さは約60cmである。平面形は楕円形で、断面形はU字形をしている。これらの形状から、縄文時代の落し穴の可能性がある。

以上のことから、工区内調査範囲におけるCG-B7(猪番場平遺跡)の調査はすべて終了した。

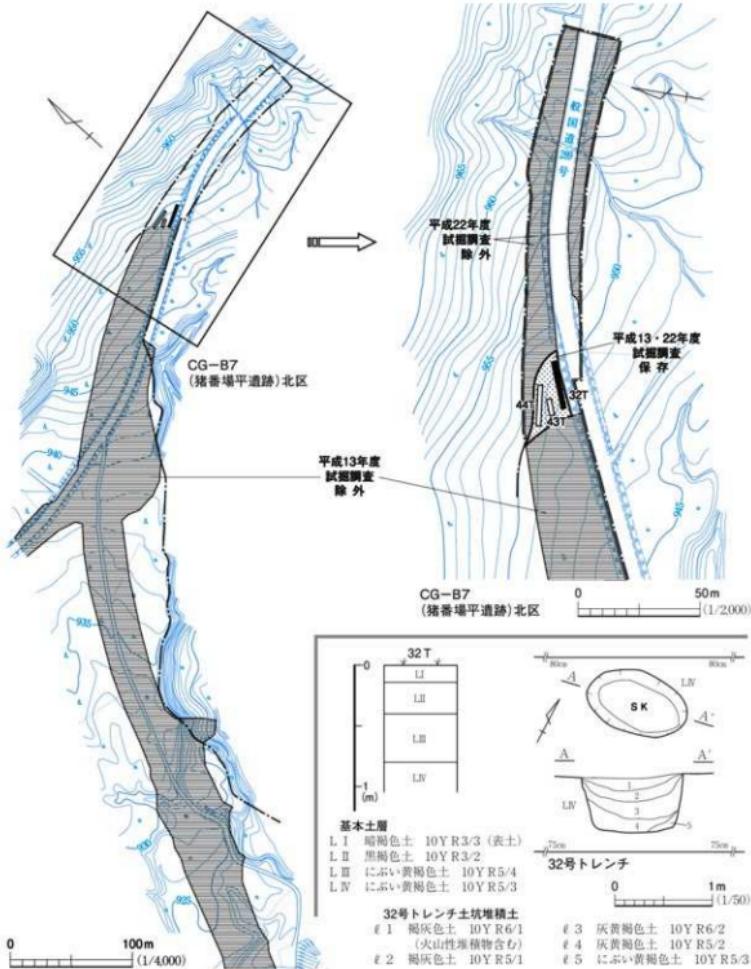


図29 CG-B7(猪番場平遺跡)トレンチ配置図・検出遺構・土層柱状図

第3章 総 括

平成26年度の福島県内遺跡分布調査は、試掘調査4事業（4市町）を平成26年4月下旬から12月下旬までの期間で実施した。試掘調査の結果、6箇所が保存対象として確定した。

なお、平成26年度の試掘調査で保存範囲が確定した一般国道115号相馬福島道路関連のSM-B⑨（向山遺跡）及びDT-B18（庚申向A遺跡）については試掘調査終了後、本发掘調査を実施している。

以下、各事業の平成26年度の試掘調査成果を本章表16～22にまとめたが、各表・本文中に掲示している調査対象面積、保存面積、未試掘面積などは、今後の工事計画変更などにより、変動する可能性がある。

1. 一般国道115号相馬福島道路建設予定地

一般国道115号相馬福島道路の全5区間の表面調査は、平成14年度に阿武隈東道路、平成18・21年度に靈山道路、平成23年度に相馬西道路、平成24年度に阿武隈東～阿武隈、靈山道路の一部及び靈山～福島をそれぞれ実施した。このうち、阿武隈東道路は平成21年度には本发掘調査まで終了した。他の4区間に關しては、平成24年度より阿武隈東～阿武隈及び靈山道路、平成25年度より相馬西道路の試掘調査を開始し、試掘調査が必要な合計54箇所（相馬西道路：10箇所、阿武隈東～阿武隈：10箇所、靈山道路：14箇所、靈山～福島：20箇所）のうち、平成25年度までに16箇所で試掘調査が終了している。

平成26年度の試掘調査は、相馬市地内の遺跡及び遺跡推定地4箇所、伊達市地内の遺跡及び遺跡推定地11箇所の計15箇所を対象に実施した。なお、靈山～福島は、平成26年度から試掘調査を開始した。

[相馬市] 相馬西道路の試掘調査は、平成25年度から実施し、6箇所の遺跡推定地で試掘調査が終了している（『福島県内遺跡分布調査報告21』）。平成26年度の試掘調査は、SM-B①、SM-B⑨の2箇所の遺跡推定地について実施した。このうち、保存面積が確定したのは、SM-B⑨の1,600m²で、横川B遺跡として登録することになった。なお、SM-B⑨は、平成26年度で試掘調査が終了した。調査が継続する箇所は、SM-B①、SM-B②、SM-B⑤（東羽黒平遺跡）の3箇所で、試掘調査が必要な未試掘範囲の面積は、合計11,400m²である。

表16 相馬福島道路（相馬西道路）関連試掘調査対象遺跡成果一覧（相馬市）

No.	遺跡名	試掘調査 終了 既 終了 未	試掘対象 面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
				年度	面積	報告書			
1	SM-B①	○	7,600m ²	H25	850m ²	【県内分21】	4,100m ²	0m ²	未試掘4,100m ² のうち、1,000m ² は試掘不要（第2章参照）。
2	SM-B②	○	5,900m ²	H25	1,100m ²	【県内分21】	4,800m ²	0m ²	
3	SM-B⑤ (東羽黒平)	○	13,900m ²	H25	9,900m ²	【県内分21】	3,500m ²	4,800m ²	H25(3,500m ²)発掘実施。【相福1】 H25(500m ²)発掘実施。 H25保存4,800m ² には、未試掘500m ² を含む（県内分21参照）。
4	SM-B⑨ (横川B)	○	4,600m ²	H25	1,000m ²	【県内分21】	0m ²	1,600m ²	
	合計		1 3 0	32,000m ²	終了	19,600m ²	12,400m ²	6,400m ²	保存6,400m ² のうち、 <u>2,400m²未発掘</u> 。
					H26	6,250m ²		1,600m ²	

【用例】「県内分21」→「福島県内道路分布調査報告書」、「相福1」→「一般国道115号相馬福島道路道路発掘調査報告書」。

（＊ 真）→本報告書掲載ページ。終→終了。既→調査終了。未→未着手。以下、共通。

※ 試掘対象面積・未試掘面積などは、工事計画などにより変更される場合がある。

相馬市地内の阿武隈東～阿武隈の試掘調査は、平成25年度から実施し、4箇所の遺跡推定地で試掘調査が終了している（『福島県内遺跡分布調査報告21』）。平成26年度の試掘調査は、未試掘範囲が残されていたSM-B@、SM-B@（向山遺跡）の2箇所について実施した。その結果、SM-B@（向山遺跡）の1,700m²を保存範囲とし、SM-B@は保存対象外とした。なお、平成26年度で相馬市地内の阿武隈東～阿武隈の6箇所すべての試掘調査を終了した。

[伊達市] 伊達市地内の阿武隈東～阿武隈の試掘調査は、平成24年度から実施し、平成25年度までに1箇所の遺跡推定地で試掘調査が終了している（『福島県内遺跡分布調査報告21』）。平成26年度の試掘調査は、DT-B16、DT-B17、DT-B18の3箇所の遺跡推定地について実施した。このうち、保存面積が確定したのは、DT-B17(500m²)、DT-B18(4,300m²)の2箇所で、保存面積の合計は、4,800m²となる。DT-B17は庚申向B遺跡、DT-B18は庚申向A遺跡として登録する。なお、平成26年度で伊達市地内の阿武隈東～阿武隈の4箇所すべての試掘調査を終了した。以上から、阿武隈東～阿武隈の試掘調査は、相馬市地内・伊達市地内とも調査継続・未着手の遺跡及び遺跡推定地ではなく、平成26年度ですべて終了した。

靈山道路の試掘調査は、平成24年度から実施し、平成25年度までに5箇所の遺跡及び遺跡推定地で試掘

表17 相馬福島道路（阿武隈東～阿武隈）関連試掘調査対象遺跡成果一覧（相馬市・伊達市）

No.	遺跡名	試掘調査		試掘対象面積		年度別試掘対象面積		未試掘面積	保存面積	備考
		終	廻	面積	年	面積	報告書			
1	SM-B@	○		11,300m ²	H26	11,300m ²	(9頁)	0m ²	0m ²	
2	SM-B@ (向山)	○		25,000m ²	H25	20,500m ²	〔県内分21〕	0m ²	5,300m ²	H25(2,400m ²)発掘実施。
					H26	1,600m ²	(10頁)		1,700m ²	H26(4,850m ²)発掘実施（調査時に250m ² 範囲拒絶）。H25保存5,300m ² には、未試掘2,900m ² を含む〔県内分21〕参照。
相馬市 計		2	0	0	36,300m ²	終了	36,300m ²		0m ²	7,000m ² 保存 7,000m ² の発掘終了。
						H26	12,900m ²		1,700m ²	
3	DT-B16	○		2,200m ²	H26	2,200m ²	(13頁)	0m ²	0m ²	
4	DT-B17 (庚申向B)	○		2,400m ²	H26	2,400m ²	(13頁)	0m ²	500m ²	
5	DT-B18 (庚申向A)	○		7,900m ²	H26	7,900m ²	(11頁)	0m ²	4,300m ²	H26(1,700m ²)発掘実施。
伊達市 計		3	0	0	12,500m ²	終了	12,500m ²		0m ²	4,800m ² 保存 4,800m ² のうち、 3,100m ² 未発掘。
						H26	12,500m ²		4,800m ²	
合 計		5	0	0	48,800m ²	終了	48,800m ²		0m ²	保存 11,800m ² のうち、 3,100m ² 未発掘。
						H26	25,400m ²		6,500m ²	

表18 相馬福島道路（靈山道路）関連試掘調査対象遺跡成果一覧（伊達市）

No.	遺跡名	試掘調査		試掘対象面積		年度別試掘対象面積		未試掘面積	保存面積	備考
		終	廻	面積	年	面積	報告書			
1	前柳船跡	○		2,100m ²	H25	1,800m ²	〔県内分21〕	0m ²	0m ²	
					H26	300m ²	(14頁)		0m ²	
2	山岸	○		2,000m ²	H26	400m ²	(20頁)	1,600m ²	0m ²	
3	DT-B2	○		1,400m ²	-	- m ²	-	1,400m ²	- m ²	
4	DT-B3 (福田)	○		3,000m ²	H26	2,700m ²	(18頁)	300m ²	1,100m ²	未試掘300m ² 含め終了。
5	DT-B5	○		1,000m ²	-	- m ²	-	1,000m ²	- m ²	
6	DT-B19	○		3,700m ²	H26	3,400m ²	(15頁)	300m ²	0m ²	未試掘300m ² 含め終了。
7	DT-B20	○		6,700m ²	H26	6,700m ²	(16頁)	0m ²	0m ²	
8	DT-B21 (沼ヶ入)	○		18,800m ²	H26	9,900m ²	(16頁)	8,900m ²	4,400m ²	
9	DT-B22	○		18,200m ²	H26	5,700m ²	(19頁)	12,500m ²	0m ²	
合 計		4	3	2	56,900m ²	終了	30,900m ²	26,000m ²	5,500m ²	保存 5,500m ² のうち、未発掘。
						H26	29,100m ²		5,500m ²	

表19 相馬福島道路（靈山～福島）関連試掘調査対象遺跡成果一覧（伊達市・桑折町）

No.	道 路 名	試掘調査		試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備 考
		終	継		年 度	面 積	報 告 書			
1	上ノ台鉢跡	○		23,300m ²	－	－ m ²	－	23,300m ²	－ m ²	
2	中室内	○		13,700m ²	－	－ m ²	－	13,700m ²	－ m ²	
3	宮内	○		18,000m ²	－	－ m ²	－	18,000m ²	－ m ²	
4	荒原敷	○		9,300m ²	－	－ m ²	－	9,300m ²	－ m ²	
5	D T - B 23	○		100m ²	－	－ m ²	－	100m ²	－ m ²	
6	D T - B 24	○		4,200m ²	－	－ m ²	－	4,200m ²	－ m ²	
7	D T - B 25	○		8,000m ²	－	－ m ²	－	8,000m ²	－ m ²	
8	D T - B 26	○		18,500m ²	－	－ m ²	－	18,500m ²	－ m ²	
9	D T - B 27	○		2,700m ²	－	－ m ²	－	2,700m ²	－ m ²	
10	D T - B 28	○		14,200m ²	H26	6,000m ²	(21 頁)	8,200m ²	0m ²	未試掘 8,200m ² のうち、200m ² は試掘不要（第2章参照）。
11	D T - B 29	○		19,000m ²	－	－ m ²	－	19,000m ²	－ m ²	
12	D T - B 30	○		27,600m ²	－	－ m ²	－	27,600m ²	－ m ²	
13	D T - B 31	○		8,100m ²	－	－ m ²	－	8,100m ²	－ m ²	
14	D T - B 32	○		7,900m ²	－	－ m ²	－	7,900m ²	－ m ²	
15	D T - B 33	○		8,800m ²	－	－ m ²	－	8,800m ²	－ m ²	
伊達市 計		0	1	14	183,400m ²	終了	6,000m ²	177,400m ²	0m ²	
H26 6,000m ²										
16	桑折台	○		200m ²	－	－ m ²	－	200m ²	－ m ²	
17	Q R - B 1	○		200m ²	－	－ m ²	－	200m ²	－ m ²	
18	Q R - B 2	○		15,400m ²	－	－ m ²	－	15,400m ²	－ m ²	
19	Q R - B 3	○		18,700m ²	－	－ m ²	－	18,700m ²	－ m ²	
20	Q R - B 4	○		18,800m ²	－	－ m ²	－	18,800m ²	－ m ²	
桑折町 計		0	0	5	53,300m ²	終了	－ m ²	53,300m ²	0m ²	
合 計		0	1	19	236,700m ²	終了	6,000m ²	230,700m ²	0m ²	
H26 6,000m ²										

調査が終了している（『福島県内遺跡分布調査報告21』）。平成26年度の試掘調査は、7箇所の遺跡及び遺跡推定地について実施した。このうち、保存面積が確定したのは、D T - B 3(1,100m²)、D T - B 21(4,400m²)の2箇所で、保存面積の合計は、5,500m²となる。D T - B 3は福田遺跡、D T - B 21は沼ヶ入遺跡として登録する。平成27年度以降、試掘調査対象となる調査継続・未着手の遺跡及び遺跡推定地は山岸遺跡、D T - B 2、D T - B 5、D T - B 21（沼ヶ入遺跡）、D T - B 22の5箇所で、未試掘面積の合計は25,400m²である。

靈山～福島の試掘調査は、今年度より開始し、D T - B 28を対象に実施した。調査の結果、保存対象外となったが、調査区北部・南部の計8,000m²が未試掘で調査が継続となる。この他、14箇所の遺跡及び遺跡推定地の試掘調査は未着手である。なお、靈山～福島のうち、桑折町地内の5箇所の試掘調査は未着手である。

一般国道115号相馬福島道路の平成27年度以降の試掘調査は、相馬西道路の3箇所、靈山道路の5箇所、靈山～福島の20箇所、3区間の合計28箇所を対象に実施する。なお、試掘対象箇所と面積については、今後の工事計画などにより変更される場合がある。

2. 地域高規格道路（会津綾貫南道路）建設予定地

会津綾貫南道路は、下郷町小沼崎地区～同町塙生地区について、平成18・19年度に表面調査を実施し、平成24年度から試掘調査を開始した（『福島県内遺跡分布調査報告13・14・20』）。

[下郷町] 平成26年度の試掘調査は、C G - B 13(600m²)の1箇所について実施した。調査の結果、遺構・遺物は確認されず、保存対象外となった。C B - B 13は11,100m²が未試掘で調査が継続となる。

平成27年度以降、試掘調査対象となる調査継続・未着手の遺跡及び遺跡推定地は、C G - B 13を含め8箇所である。なお、試掘対象箇所と面積については、今後の工事計画などにより変更される場合がある。

表20 地域高規格道路（会津縦貫南道路）関連試掘調査対象遺跡成果一覧（下郷町）

No.	遺跡名	試掘調査		試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終了	継続		年度	面積	報告書			
1	龍ノ入	○	—	10,200m ²	H24	8,200m ²	【県内分20】	2,000m ²	5,000m ²	
2	栗林	○	—	—						
3	辻堂F	○	—	—						
4	辻堂	○	—	—						
5	C G - B 9	○	—	—						
6	C G - B 10	○	—	—						
7	C G - B 11	○	—	—						
8	C G - B 13	○	—	11,700m ²	H26	600m ²	(23頁)	11,100m ²	0m ²	
合計		0	2	6	21,900m ²	終了	8,800m ²	13,100m ²	5,000m ²	保存 5,000m ² は、未発掘。
					H26	600m ²			0m ²	

3.一般国道118号バイパス建設予定地

鏡石町内の一般国道118号バイパス関連の試掘調査は、計3箇所の遺跡及び遺跡推定地を対象に平成22・23・24年度に実施し、調査の結果、いずれも保存対象外となった（『福島県内遺跡分布調査報告18・19・20』）。このうち、1箇所は調査が終了したが、未試掘部が残る2箇所は、調査継続となっていた。

【鏡石町】 平成25・26年度の試掘調査は、未試掘部が残る江泉館跡(700m²)及びK I - B 1(150m²)を対象に実施した。調査の結果、江泉館跡及びK I - B 1とも保存対象外となり、試掘調査が終了した。

以上から、鏡石町内の一般国道118号バイパス関連の試掘調査は、平成26年度ですべて終了した。

表21 一般国道118号バイパス関連試掘調査対象遺跡成果一覧（鏡石町）

No.	遺跡名	試掘調査		試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終了	継続		年度	面積	報告書			
1	江泉館跡	○	—	12,400m ²	H23	4,500m ²	【県内分19】	0m ²	0m ²	
					H24	7,200m ²	【県内分20】	0m ²	0m ²	
					H25	700m ²	(26頁)	0m ²	0m ²	
2	K I - B 1	○	—	1,500m ²	H24	1,350m ²	【県内分20】	0m ²	0m ²	
					H26	150m ²	(26頁)	0m ²	0m ²	
					H25	700m ²		0m ²	0m ²	
合計		2	0	0	13,900m ²	終了	13,900m ²	0m ²	0m ²	
					H26	150m ²		0m ²	0m ²	

4.一般国道289号南倉沢バイパス建設予定地

一般国道289号南倉沢バイパス関連の試掘調査は、計9箇所の遺跡及び遺跡推定地を対象に平成13・14・22年度に行っている（『福島県内遺跡分布調査報告8・9・18』）。

【下郷町】 平成26年度は、工事計画の変更により、C G - B 7（猪番場平遺跡）の保存範囲700m²を対象に再度試掘調査を実施した。調査の結果、新たに確認された遺構・遺物はなかった。このため、平成13年度に検出していた土坑1基のみを調査・記録作成した。これにより、保存範囲700m²の調査はすべて終了した。なお、平成27年度以降の試掘調査範囲として、C G - B 6の調査区西部5,300m²が残されている。

表22 一般国道289号南倉沢バイパス関連試掘調査対象遺跡成果一覧（下郷町）

No.	遺跡名	試掘調査		試掘対象面積	年度別試掘対象面積			未試掘面積	保存面積	備考
		終了	継続		年度	面積	報告書			
2	C G - B 6	○	—	8,900m ²	H13	3,600m ²	【県内分8】	5,300m ²	0m ²	
					H13	26,500m ²	【県内分8】	0m ²	700m ²	H26の試掘対象面積700m ² は、保存面積700m ² を対象とした再試掘調査（第2章参照）。
					H22	1,800m ²	【県内分18】	0m ²	0m ²	
					H26	700m ²	(27頁)	0m ²	0m ²	
合計		1	1	0	37,200m ²	終了	31,900m ²	5,300m ²	700m ²	保存 700m ² の調査終了。
					H26	700m ²		0m ²	0m ²	

福島県文化財調査報告書第504集

福島県内遺跡分布調査報告 22

平成27年8月28日発行

編 集 公益財団法人福島県文化振興財団

■960-8116 福島市春日町5-54

発 行 福島県教育委員会

■960-8688 福島市杉妻町2-16

印 刷 八幡印刷株式会社

■970-8026 いわき市平字田町82-13
